

未来への

# DesignTech for future

COVID-19 後の世界をプロジェクトするデザインと  
テクノロジー

#designforce

**Designtech**<sup>®</sup>



# インデックス

はじめに

説明条項と参照背景

事業計画概要

01. 不動産

02. リビング

02.1. シニア生活

02.2. 共生

03. 職場

04. ヘルスケア

05. レストラン

06. リテール

07. 銀行

08. ホスピタリティ

09. パブリックスペース

10. モビリティ

11. サプライチェーン

12. 社会イノベーション

13. 教育

13.1. 学習と研究

14. ウェルネス

15. 行動デザイン

16. バーチャルツイン

会社概要





# はじめに

編集/DesignTech Hub

DesignTech Hubは製造・不動産業界と協力しながら、デザインと建築の街ミラノより、デザインとテクノロジーの融合がアフターコロナにおいて、どのように重要な役割を果たせるかの議論をはじめました。

確立されたこの居住モデルに疑問を呈した、これら数か月のロックダウンでは、部門毎に最も重要なプレーヤーの一部を集めて、再起動のためのプログラム文書を会社に提供し、社会的共存のための新しいガイドライン、私たちが住んでいる都市、つながり、そして明日の居住モデルを特徴付ける新しい「生きている」オブジェクトの開発のための具体的なアイデア提案するものです。

パンデミックに伴い、時代遅れのモデルによって決定される都市、インフラストラクチャー、アーキテクチャー、環境、ライフスタイルのすべての重要性和限界が、時として劇的に出現しました。これは、私たちが住み、保存したい新しい世界の輪郭をたどるのに適切な歴史的瞬間であると信じています。

それはある意味、まるでウイルスが旧世界で「プラグを抜いた」かのようであり、今では完全に新しい世界の「スタートアップ」から再開する機会と言えます。

このホワイトペーパーは、デザインの重要性、研究への投資、オープンイノベーションダイナミクスの活性化に注目することを目的とし、機関や市場運営者を対象としています。この分野で、人と環境を中心に据えた革新的で持続可能な対策の社会的、経済的、環境的影響を強調しています。

このホワイトペーパーは、外食産業の世界から学校や健康の世界に至るまでの企業や専門家が隣接する、国内および国際的な建築およびデザインスタジオで構成されるデザインフォースの貢献を収集し、プロジェクトが技術革新と組み合わせられてどのようにできるかを要約しています。短期的に健康危機を克服し、私たちの日常生活を改善し、中長期的に経済を再開することを可能にするでしょう。

組織、ビジネス、不動産、建設業界との絶え間ないオープンな対話を活性化し、「新しい現実」を構築するために取り組むべき設計上の問題を明確に特定し、その結果として日常が流れるさまざまな空間を構築します。



# はじめに： 参 照のコンテ スト

編集/PwC Italy | Consumer Markets

THINK  
OUTSIDE  
THE BOX

Covid-19は、企業や個人を、人類がこれまで経験した中で最も複雑な課題の1つに直面させてきました。無限の可能性の時代のように見えたものは、そのすべてに脆弱性と爆発的な可能性を示唆しています。

無限の可能性に私たちを慣れさせてきた世界では、人間の弱さを認識することは困難です。社会的距離とその経済的影響は、性質と強度が異なる外部刺激に反応するさまざまな商品分野への影響を統合できるようにする、新しい最先端のソリューションの広大なパノラマを定義する必要があります。これは、私たちが再設計したい世界の輪郭をより適切に定義し、企業やフリーランサーが競争力のある方法を再構成できるようにする、国の将来のためのプロジェクトに焦点を当てる適切な時期です。

パンデミックによって課せられたシナリオは、経験したことのない状況への強烈な経験的アプローチを軽蔑するのではなく、抜け道を見つけるための「頭脳」に委ねられなければなりません。未来のビジョンには、習慣やライフスタイルをより良く再形成し、高度な技術シナリオでも社会学的なつながりを取り戻すことによって、国の未来を設計することを可能にするさまざまな文化的規範を含める必要があります。私たちの社会を構成する集団はさまざまなモノをつなぐ強い相互依存性を認識しています。新しいビジネスモデルは、緊急事態にもかかわらず、持続可能性と循環経済の観点から発展し続け、これまでの経験を考慮に入れた経済成長の道を辿り、ワイルドなアウトソーシングがはるかに複雑になり、その強い動きによって不利になることを考えると、影響範囲が狭いサプライチェーンが有利と考えます。

このホワイトペーパーの目的は、公的機関と民間機関が、統合の成長の精神の中で、急速で相乗的な変革の反省と調和融合および複数の道を歩むように刺激することであり、新たな構築の段階の主演としてのデザインの役割に焦点を当て、世界中に輸出されます。  
(それほど多くの再建ではありません)

技術と組み合わせたデザインは、オープンイノベーションの枠組みの柱を表現するゆえの、ビジョン、インスピレーションと実際の間の接続要素になるという課題があります。

結論として、現在の危機を人類の新たな偉大な始まりに変え、典型的なイタリアのデザイン文化を強化し、それに重要な革新的な機能を与え、この文書を作成することで、前例のないワーキンググループの野心的な挑戦を行うことです。



# エグゼクティブサマリー

構築される為のPPAN通信とネットワーキング;

不動産から教育まで、生活からオフィススペースまで、また銀行世界の特定の衰退と共に、健康施設からレストランまで、小売からホスピタリティまで、モビリティ、社会イノベーション、サプライチェーンに焦点を当てています。パブリックスペースにも特に注視をしています。これらは専門家が注目し、フォーカスした13の論点です。

タスクフォースとしてのホワイトペーパーから、不動産部門の継続的な進化の道に身を置くと、「建物と都市空間は永遠ではない」ことが明らかになります。したがって、材料の選択を考慮して、ライフサイクルを再設計する必要があります。環境の観点から、及びそれらの可能な再利用に関連する、構成要素、建設システムも疑問視されており、自動車や航空の世界で行われているように、組み立てられるコンポーネントを選択する必要性を推し進めています。

コンポーネントだけでなく建物自体も再利用し、たとえば未使用の観光ホテルの複合施設を、特定のユーザーセグメントを対象としたテーマ別の生活空間、または共同生活空間に変換することから学ぶことができます。したがって、すぐに後退したシェアリング経済でさえ、中期的にはその強みを見つけることができるでしょう。

「既存の不動産ポートフォリオの脱炭素化」に真に貢献するパラメーターを実現するためには、環境、エコロジー、「持続可能で生物親和性のあるデザイン」というテーマが不可欠です。二次的なものではなく、利便性のあるオープンな緑地の使いやすさに関連しており、おそらく現在既に意識されていますが、家を「オープンエコシステム」にするために定着化する必要があります。

タイプが何であれ、「都市再生の大きな課題は、密度、効率の必要性和、健康の観点から安全な空間と環境を作り出す必要性を組み合わせること」です。一般に、ケアの概念は、私たちの健康に影響を与えるすべてのパラメーター（空気と水質、熱、光、音響の快適さ、栄養）に注意を払いながら、ケアの概念へと進化します。健康とヘルスケアをテーマに、人々の家に入る広範囲で領域的な新しいヘルスケアモデルをイメージする大規模なデザインのアイデアが再開されました。デジタル化、自動化、IT、個別化医療、遠隔医療などは、未来の病院をサポートし、職場や自宅の人々を結び付けます。

プロジェクトの規模に関係なく、「私たちは循環経済の観点から考え続け、税額控除などの一般的な財政措置を通じて、環境にやさしい、または完全にリサイクル可能な物質や材料の調達を、適切な処分習慣と共に奨励し続けなければなりません」。特に食品の世界では、レストラン事業の主要なプレーヤーと、質の高いアイデアと新しいフォーマットの両方に課題が開かれています。情

Paola PierottiとAndrea Nonniが率いるPPANチームは、メディアパートナーのイニシアチブあり、ホワイトペーパーコンテンツのコーディネーターです。

熱、決意、備えは、このチャンスに乗るための有効な改善の主役になり得るキーワードです。それは 教育、訓練、コミュニケーションが基本となります。

デザイン、テクノロジーだけでなく、経営文化も同様で、特にオフィススペースやヘルスケア施設では、行動や技術設備を考慮に入れ、物理的なスペースを管理する上で「チェンジマネジメント」が中心となります。

専門家の声を聞くと、テクノロジーはおそらくイタリアの弱点であると述べ、特に国土のつながりの均一性の欠如においては、それが顕著に表れます。

したがって、この期間が現在の概観を強力に押し上げると確信しています。これらのインフラストラクチャー、特に医療施設に関しては、市民の強い関与を伴う緊急の介入が必要です。

パンデミックが終わった後、仕事、自由時間、買い物、スポーツは実質と形態の大きな変化を経験するでしょう。それ故に経験の概念に取り組むという考えが生まれます。小売に関しては、アトラクションやエンターテインメントモデルではなく、製品体験に焦点が当てられます。この意味で、近年すでに進行中のショッピングセンターの危機は、独立型ショップやストリートショップの利益のために、おそらく加速するでしょう。一般に、e コマースと実店舗の統合は、後者の存続に不可欠です。

ラグジュアリーは、予約による買い物が想定され、小売業とホスピタリティの両方のレッスンになります。「ホテルは間違いなく、プライバシーと各ゲスト専用のスペースに特に注意を払いながら、エクストララグジュアリー分野からインスピレーションを得ます」。一般的に、「パンデミックをイノベーションの機会として利用し、欲求や懸念を予測する必要があります」。そのためは、クライアントとデザイナーの対話が不可欠であり、後者は、実用的な問題を解決する革新的な解決策を見つけ、美的センスを再定義することを求め、規制に対応し、次世代の建築の品質と管理システムを提案します。

タスクフォースは、都市、モビリティ、公共スペースについて、この機会を最大限に活用し、気候変動の課題に立ち向かうことができる、体系的な変化を実行する必要があるという共通の方針も示しています。

特にモビリティについて考えると、今日、体系的な変化を想像する3つの領域があります。

燃焼エンジンから電気自動車への車両の変換、マイクロモビリティの強化、デジタル接続に関連する移動の削減です。

一方、パブリックスペースのテーマを考えると、不況が過ぎ去ったとき「スマートシティ」の概念はもはや十分ではなくなることは明らかです。安全な都市に向けたさらなるステップは、人々の静けさの感覚を取り戻すために、テクノロジーが安全性と空間

の制御の必要性と対話する都市モデルを検討することです。

デザインは、データと密接な関係を築き、スマートで安全な要件に同時に対処して、現代の都市計画に向き合います。

DesignTech Hubは、若い世代、特に創造的で協力的でさまざまな教授法を受け入れる学校を必要とする子供たちを考慮に入れたコンテンツと、提案の体系化に取り組んでいます。



# 01 不動産

編集/ Lendlease

Giuseppe Tortato ArchitettiとGETとのコラボレーション

ウイルスは、私たちに外出禁止を押し付けました。それは世界的な悲劇の現実にもかかわらず、私たちは想像を絶するスピードでハイブリッドな方法での生活と仕事へと導かれました。そのおかげで、とりわけ社会組織スペースの使用方法について深い考察が生じました。単なるビジネスチャンスとしてだけでなく、人類と自然などの生命システムの関係を再生する機会としても捉えなければならないチャンスです。健康危機によって課せられた社会封鎖は、多くの状況で、環境条件の一般的な改善が見られました。(生産活動の減少と輸送システムの影響による大気汚染の減少、航行の減少による流域の水質など) これらの危機の影響から、人間原理が環境に与える影響と、この活動の深遠で意識的な見直しが、環境の解決にどのように積極的に貢献できるかを考慮した不動産開発モデルの再考を再開する必要ができました。それは、私たちが経験している健康危機の原因の1つである気候変動との戦いなど、いくつかの環境問題の解決に積極的に貢献することができます。

Covid-19は時間を止めました。以前と同じではありません。映画「トゥルーマンショー」のように、他にも可能な人生があると言うトリックを、私たちは発見しました。私たちの多くは、よりハイブリッドな方法で仕事や生活を変え、個人的な時間のためにより多くのスペースを残しているのかもしれない。

## 不動産は、変化をサポートし、方向付けるための強力な基本的なツール

建築とデザインは、自己を見直すツールになることによって、失われた社会的機能を持つことに戻らなければなりません。その機能的な役割に加えて、構築された環境に象徴的で識別的な価値を与えることで、私たちは空間を考え、設計し、作成し、伝達する新しい方法を開くことができるのです。

これらの仮定から、始めて開発モデルを再考することができます。より実質的には、建物や都市空間が持つ必要性のある特性、とりわけ「永遠ではない」という特性を再考することができます。

## 建物のライフサイクルを設計

「ゆりかご」から「ゆりかご」までの存在期間中に建物から発生する排出物を最小限に抑えるための建物のライフサイクル、より正確に言うと、その構成要素の研究を事前に計画することが不可欠です。(CradleTo-Cradle) または、建物のコンポーネントを構築するための原材料の抽出から、建物の寿命が尽きたときに再利用されるまで、さらには建物の多様性と柔軟性は、将来の変化を歓迎し、それらの再生を促進するのに役立ちます。

プロセス、使用される量、およびそれらの管理、保守、解体に与える影響、量を最適化するための材料、構成要素の設計と研究、それらのためにより多くのスペースと時間を確保しなければなりません。

建物が陳腐化したり機能しなくなったりした場合でも、ライフサイクルの設計には、このプロセスを容易にするテクノロジーを使用して、建物を解体するのではなく「分解」できるようにする必要があります。(要するにコンポーネントが設計されてから製造さるまでのオフサイト建設です。大部分の工場内では、より迅速に実行され、その結果としての廃棄物、建設時間、およびそれらに関連するコストの削減を可能にしています。) したがって、DfMA(design for manufacturing and assembly) で定義された設計アプローチに注意が向けられます。自動車と航空の世界を比較してもてわかるように、将来的には新たな建築物の建設が少なくなり、既存の建物の再利用がますます増えていきます。

## 新しい建設のガイドライン。

新しい構造の望ましい特性のいくつかを以下に示します。

- 生物気孔の原則に従って建築が開発され、自然と自然光が浸透し、居住者をまぶしさから保護しながら最大限に光を活用するために適切に規制された建物であることです。

- 持続可能で生物親和性のあるデザインを支持すると共に、この点について、S. R. ケラートと J. H. ヘルワーゲンの言葉を引用して:  
「バイオフィリックデザインは、建物をより緑にしたり、木や低木を含めることで単に美的魅力を追加したりすることではありません。 それらは、自然界における人類の位置と、人間社会における自然界の位置に関係しているのです。」

- ゼロカーボンネット: これまで、既存、開発中、または建設中のリテールの世界で、世界のCO2排出量のほぼ50%を占めており、「国連グローバルステータスレポート2017」では、現在から2040年の間に同等のものを建設すると、パリのような都市の面積に相当するものを毎週建設するのと同等と予測しています。 したがって、当面の目標は、排出量の影響がすぐにゼロになる建物を設計すると同時に、欧州共同体の指摘に沿った深層からの改修、いわゆるそれらに介入し、既存の不動産ポートフォリオの脱炭素化に取り組むことです。

これらの原則の遵守は、特別な権利を意味します。

- 例えば、可能な場合、ソーラー煙突や風力タワーなどの自然換気および温度調節システムを利用することにより、自然に自己調節するパッシブビルの設計を行う事です。

- 断熱、熱慣性の増加、エネルギー消費を必要とするアクティブなプラント技術を採用せずに、自然に発生するすべての物理的現象を制御サポートし、可能な場合は(つまり、内部環境の快適条件を低下させることなく) そのアクティブを低減するための技術で解決すべく、建設段階、管理段階の両方で建物のコストに大きな影響を与えるプラント技術の

貢献に寄与する事です。

- 環境の観点から、高価な材料(バイオベース)、主に木材(Glu-lam、CLT、Xlam、LVL) を使用すると、鋼やコンクリートから発生するCO2排出量が削減され、より人間味が増し、炭素排出量削減に大きく貢献します。(木材システムのライフサイクル分析には、大量のCO2を吸収した、木の寿命までにもたらされる環境上の利点も含まれます)。

- 運用段階に於いて、化石燃料を燃焼しない新しい正味ゼロカーボンビルは、再生可能エネルギー源から生成されたエネルギーで100%の電力が供給され、気候変動の目標に準拠した運用で一定レベルのエネルギー性能を達成する必要があります。

- 建設時及び廃棄措置の段階では、建物は再利用された材料で建設され、その寿命の終わりに解体できる必要があります。これにより、埋め立て地に送られる廃棄物の生成が最小限に抑えられ、コンポーネントの再利用、またはリサイクルが最大化されます。これは循環経済の原則に沿っています。

## Covid-19などの衝撃に強い弾力のある建物の設計

Covid-19後に設計される建物に関する新しいニーズは、技術的健康アプローチに関連する要望であり、規制および技術的側面に関連する客観的要因だけでなく、リスクの認識などの主観的要因の両方に作用することによって、ユーザーを安心させる機能を備えた、無意識のレベルでも機能する事です。

- 建物の入口に設置するスキャンシステム(熱がある場合は人が入れない)。

- 非接触および無線技術、音声制御、顔認証を備えたシステム。これらはすべて、汚染されている可能性のある表面との接触を最小限に抑えることに重点を置いています。

- 頻繁な空気交換を伴う自然換気システム(外部の空気品質がパラメーターで許可されている場合)、および環境内のスタンドアローンの空気浄化システムとの統合の可能性の模索。

- 外気の最小風流量を制御する機械的換気システムの使用、粒子防止ろ過、活性炭、冷却コイル/フィンパック/凝縮液収集トレイでのUVランプ処理システムの使用、および部分的な再循環システムの等の設置。

- 衛生処理のための紫外線による消毒システムの使用、特に、いわゆるハイタッチ表面(ハンドル、手すり、押しボタンパネル、調理台、家具要素)の使用、これらの表面の洗浄性を優先する形状を促進する美的処理。(



丸みを帯びた形状、滑らかな表面)

- 合成材料ではなく、青銅、銅、真鍮などの殺菌性材料は、環境構築のために使用するスペースをますます見出すでしょう。
- オフィスと自宅の両方で絶え間ない、使用の変化する環境に適応させるための、レールまたはホイール上で移動可能な柔軟な取り付け方法。
- 密度が低いほど、人々はより多くの個人的なスペースを必要とします。

## 建物の性能を測定し、価値を創造する

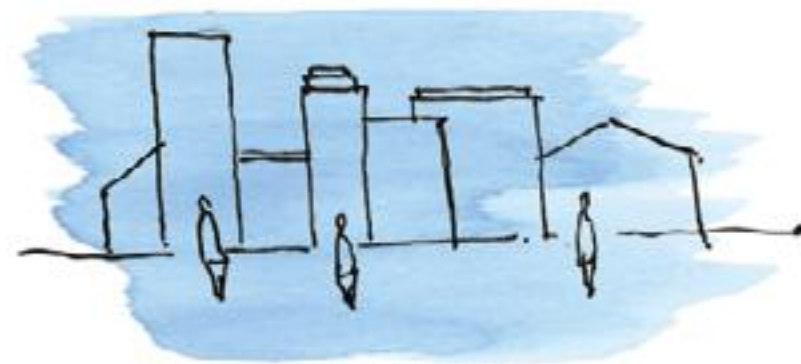
スペースの持続可能性と環境品質（居住者の健康と福祉を確保するため）は、前節で説明した戦略を実行することによって取得でき、客観的に測定できるため、堅牢なパフォーマンス指標を通じて実証できます。そして客観的な判断を下し、建物について理解することが大事になります。特に、LEED® (Leadership in Energy and Environmental Design-[www.usgbc.org](http://www.usgbc.org)) やWELLBuildingStandard® ([www.wellcertified.com](http://www.wellcertified.com)) などの認証システムは、世界の不動産市場で認められている指標です。(LEEDは現在世界の170か国以上で、WELL70か国以上で見られます)

これらのシステムは、継続的に実行されており、前述の指標を適切に調整することでCovid-19によって提案された新しい課題に対応できる建物の設計、建設、管理のガイドラインとしても機能する方向へと進化しています。

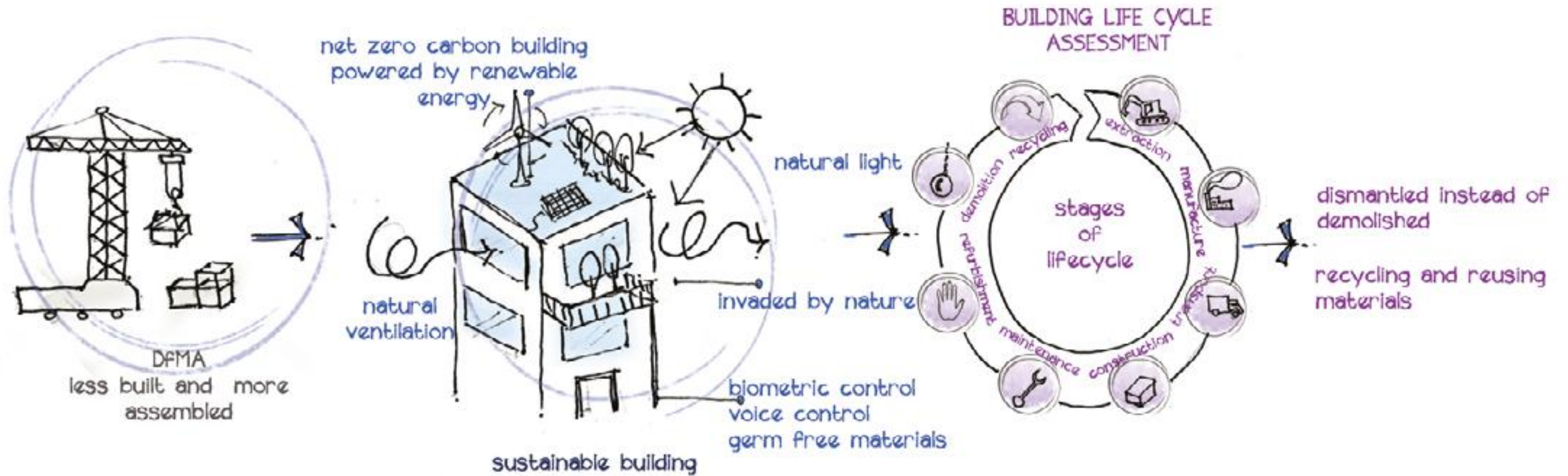
前の段落で説明した戦略は、上記の評価システム（建物だけでなく、近隣や都市にも適用可能）で、実行ガイド、計算および検証モデル、およびそれらの効果を証明するための堅牢な証明プロセスを見つけます。不動産市場において、資産の経済的価値を評価するために参照され、関係する企業体のための持続可能なコンプライアンスツール、管理と保守への効果的なガイドを表すメリットを生み出します。

特に都市にとって、再生の大きな課題は、密度と効率の必要性和、健康の観点から安全な空間と環境を作り出す必要性を組み合わせることです。





hybrid city





## 02 生活

編集/Pininfarina Architecture

1972年イタリアの新しい国内の風景展を通じてMOMAは、イタリアのデザインの先見性と品質、テクノロジーの先駆的な使用を通じ、生きるための未来的なシナリオを想像する能力を称賛するために、新世代のデザイナーを紹介しました。

私たちが経験している世界的な危機意識は、私たちを同じ様な状態に置き、そこで私たちは新しい生き方、働き方、そして動き方をイメージすることができます。創造性がプレッシャーの下で発展するのが本当なら、この機会を無駄にすることはできません。私たちは家の中で数週間閉鎖され、バルコニーでのマイクロコミュニティと相互作用の後、家での生き方と認識方法は根本的に変わりました。家庭環境を現代的な生活に更新するという共通のニーズが生じており、私たちはこのニーズに進化しながらデザインの力で応えなければなりません。

## オープンエコシステム

将来の家は現在とは違ったものになるでしょう。もはや単純な建築製品ではなく、柔らかく、複雑で、絶えず変化する風景となりえます。私たちはそれを、一時的に否定することができる外部空間に手を差し伸べ、開かれた生態系、外向的な環境としてイメージしなければなりません。データはこの必要性を示唆しています。イタリアだけでも、過去4週間で、テラスまたは庭のある物件の価値は8%増加し、それらがなくない生活空間では、鏡に写し込まれた照り返しのようになり壊れました。

私たちが見た過去数週間の行動を観察すると、そこで生きたすべての隙間での空間の新しい使用法、例えば、踊り場、バルコニー、ギャラリーは、日常生活の延長線上にあります。隙間空間のこの自然な使い方は、生活の有機的な発展を表現しています。建物の屋上緑化は、市街地の質を向上させるための基本であることが証明できます。ピロティだけでなく、階段の吹き抜け、中庭、駐車場は一般的な生活空間にもアップグレードすることができます。

アーバンガーデンや屋上緑化システムなど、私たちが長年聞いてきたいいくつかのソリューションの広範な採用を加速します。寄生虫のような生活空間を、有機的に拡張できなければなりません。そこに住むユーザーの流れに合わせて成長することが大事なのです。

この意味で、テクノロジーはプロジェクトと建設の観点から助けになると考えられます。

建物は、組み立て、分解、集約が可能なオフサイトで構築されたモジュラー構造の統合による継続的な変換の機械としてイメージすることができます。このことより技術的な理由よりも文化的な理由で忘れられていた、アーキグラムの予言とセドリック・プライスのビジョンをようやく実現することができるのです。



## デジタルエコシステム

強制的に隔離された最初の数週間、デジタル世界は、生活、仕事、レジャーの唯一の場所となった家庭環境を中心に、突如加速しました。この加速により、テクノロジーの採用と統合が促進され、これまでアイデンティティを見つけるのに苦労してきたデジタル生活の新しい文化が、そこに生まれたのです。

ホームオートメーションは既に語りましたが、瞬間的なニーズに応じて変化し、身体的および心理的な健康を最大化できる敏感な環境について述べてみます。

健康の観点から、ネットワーク化された在宅ケアの論理、いわゆる、ハブアンドスポークモデルにおけるヘルスセンターや病院への接続として理解される、遠隔医療プロセスの加速が見られます。ケアの概念は、私たちの健康に影響を与えるすべてのパラメーター（空気と水質、熱、光、音響の快適さ、栄養）に細心の注意を払いながら、ケアの概念に進化します。新しい国内でのエコシステムは、様々なスペースで様々な時間に様々な方法で使用できるようにする必要があります。これはまず、空間コンフォメーションに影響を与えます。ミニマリストのロフトではなく、平面図と立面図の複雑なスペースです。家は私たちを退屈にさせてはいけません。それどころか、私たちを驚かせ楽しませ、可動の壁や家具で遊ぶことができるようにする必要があります。機能的な観点から言うと、私たちはワークスペースをレジャースペースに変えることができなければなりません。体感型のプロジェクションでは、映画を見たり、電話会議を行ったり、仮想現実で旅行したりする必要があります。これらに、世界の異なる視点でそれぞれの窓を想像するため、身体活動のため、そして家庭菜園のためのスペースを追加する必要があります。

## マイクロコミュニティとソーシャルネットワーク

現在各地で行われている検疫は、私たち自身を「世界の市民」と考えることに慣れさせ、自発的な相互作用によって生成されたマイクロコミュニティとの関係を結ぶことを余儀なくされています。私たちの家の窓やバルコニーから、現在のソーシャルネットワークまで、短い安全な距離から更新できるようにスペースが突然縮小化しました。将来的に、建築はプロジェクト内にこれらのマイクロコミュニティを含める必要があり、地域コミュニティの相互作用、関与、活性化を強化することを目的として、意図的、追加的、測定可能な社会的影響の生成のための方法論を利用することになるでしょう。

社会的影響について言えば、私たちは行動の変化を私的な文脈に限定することはできません。公共部分では、地方自治体および地域レベルで、これらの変革を加速し、税金または手続き上の簡略化を通じて、質の高い公共共有スペースの作成を目的とした既存の資産の再開発に報いるという基本的な役割を担います。英国の新聞The Guardianの調査によると、約1,100万戸の空き家と未使用の家があります。国レベルでは、同じ状況

で市場にある数百万平方メートルの空き地を開放すると同時に、新しい生活様式を支持するよう努める必要があります。

さらなる機会は、現在使用されていない観光客の為のホテルの複合施設を、テーマのある生活空間または共同生活空間に変換するか、特定のユーザーの論拠を対象にすることです。したがって、後退したシェアリングエコノミーでさえ、中期的にはその強みを見つけることができるでしょう。

## 建築の象徴的な力

都市規模で言うと、過去10年間の都市化の中で唯一の建築家であろうマントラを忘れることはできません。おそらく、パンデミックはこの傾向を逆転させ、これは私たちが住むことを決めた家の場所に重大な影響を与えるでしょう。しかし、明らかに生命のない私たちの都市の空を観察することは、私たちの社会的アイデンティティの創造における、建築の積極的な役割を回復させ、私達、私たちの都市、私たちの街路、そしてそれは私たちの記念碑となるのです。





## 2.1

## シニアリビング

編集/Korian

Covid-19に関連する健康上の緊急事態は、パンデミックから脆弱な人々の保護に関連する問題を破壊的な方法で引き起こしました。封鎖によって課せられた孤立は、特に自立している人々にとって、現在の住宅提供（社会保健施設と伝統的な住居）の不十分さを示していますが、典型的に年齢的な弱者に不利な面を持っています。

自立していない人々を支援するために造られた**既存の住宅モデル**は、社会的または健康上のニーズにさえ対応することができませんでした。ユーザーの健康と安全を最大化することを目的とした新しい方法論に従って再考する必要があります。また、医療健康分野の最新世代の技術を通じて、地域でホームサービスを提供することも必要です。

新しい住宅モデル、それは、マイクロコミュニティから保護された住居にまで及ぶ可能性があります。また生活の観点からより高い品質を保証する必要があります。医療と健康のニーズを満たすだけでなく、とりわけ心理的および社会的性質、知覚的および感情的な側面は、空間のデザインのものでなければなりません。ケアの概念から、より広い原則への移行が求められています。

そして、美しさ、機能性、使いやすさの適切な調和を模索するための努力が必要です。

自然光と換気、そして緑と屋外の空間は、心身の健康に不可欠です。空間は、シンプルで直感的な方法で形状や機能を変更できる柔軟なレイアウトを通じて、ゲストの特定のニーズに適応できる必要があります。

テクノロジーは、常にユーザーにプラスの影響を与える手段として理解されるべきであり、空間にシームレスに統合する必要があります。使いやすさと効果的なアクションを確保し、さまざまな分野で総合的に作業ができなければなりません。

- 建物のライフサイクル全体の環境の持続可能性を模索します。
- 快適さと健康、ユーザーとの直接の相互作用とユーザーの心身の状態の継続的な監視を可能にする技術システムを統合します。

- 統合されたりリモートセキュリティおよびヘルスケアシステムによって、プライバシーを完全に尊重して保証されたパーソナルアシスタンス、ハウジングユニットによって、高度なセンサーが装備されている必要があります。

住宅ユニットには、自動転倒検知システム、バイタルパラメータを監視するためのスマートベッド、居住者の通常の習慣と比較した異常なアクションの識別などの高度なセンサーが装備されている必要があります。

- 社会的な観点から、オーディオ/ビデオ通信技術は依然として基本的に重要であり、居住者が知人や家族と緊密に連絡を取り合うことを可能にし、数ヶ月のロックダウン時に多くの高齢者が直面した孤独感や見捨てられた感覚を回避することができます。



## AREA 2.1

これらのテクノロジーの調整と監視には、データをリアルタイムで収集、集約、監視することにより、デジタルプラットフォームと統合された、地域全体に分散した、ハブを中心とした集中管理システムが必要です。それらは、医療従事者、支援者、介護者の間の仮想の待機場所としても機能することができます。





この歴史的な瞬間に、共生、社会性の場所、建築について共有し話すことは、文脈から外れ、ほとんど時代錯誤に見えるかもしれません。しかし、一方でパンデミックが個人の健康を保証するために、空間の分離と分割の政策と措置を促進したように思われる場合、アクリルパネルのバリアで作られたシナリオ、または「バックミンスター・フラー」のガラスの泡の中で生きることを余儀なくされる？ かもしれません。一方、社会性に対する人間の必要性が自発的に現れ、封鎖の期間に驚くべき相互接続シナリオを作成しました。

「私たちはどのように一緒に暮らすのですか？」 ヴェネツィアで開催された第17回国際建築展のキュレーターであるハシム・サルキス氏が提起した現在のテーマです。建築の仕事を強調するために、今日、私たちが住んでいる場所の「宇宙との契約」を再定義することを、これまで以上に迫っています。

社会性とウェルネス、現時点では反対に見えるかもしれない用語ですが、共生の公式で組み合わせると、新しい出発点、機会、世界的な危機のこの瞬間に、私たちの都市を変革し、再生するため、それら新しい生活モデルから始めることは、健康を中心に住む私たちの空間と分離しています。

### 健康の共有

シェアリングエコノミーにもかかわらず、サービスの共有に基づいて、パンデミックと社会的距離に置き、その原則は放棄されるべきではなく、進化すべきであると信じています。シェアリングエコノミーが、輸送から居住まで、生産された商品の最大の収益性を利用している場合、人と地球の健康に向けられた新しい共生、共有によって生み出される収益性と文化的機会を見失うことなく、健康を保証する必要があります。

パンデミックは、モデル自体ではなく、環境の空間密度と品質の観点からトレンドの逆転を考えるように私たちを導きます。

新しい条件は、実際には新しい生活モデルを再考する機会と促進剤になる可能性があります。ネットワーキングと物理サービスと仮想サービスの共有のおかげで、柔軟性と持続可能性の名の下に生活し、働くことができます。

このシナリオでは、複数の利益と投資は、量だけでなく質の向上、および新しい共有モデルの中心性と経済的エンジンとしての健康の共有を目的としています。

### 技術的な再機能化

社会的距離は、パンデミックの最初の瞬間から、技術革新と仮想革新の促進剤として機能してきました。

サービスに適用されるイノベーションにしたがって、計画の共有と管理に適用されるイノベーションは、確かに、共同生活環境の最初の実例に投



資する分野です。

ニーズとスケジュールに基づくフローの管理だけでなく、配信サービス、エンターテインメントアクティビティのプログラミング、仮想インターフェイスまたは一般的なオープンな場所でのスポーツと教育の管理などは、新しいスマートコミュニティの開発の最初のステップにすぎません。

共生はいまだ実験の分野であり、社会イノベーションのエコシステムであり、特に私たちの生活や働き方に適用されなければなりません。そして共同生活がますますリビングラボと関連付けられているのは偶然ではありません。イノベーションが、利害関係者、主人公、そして変革プロセスの活発な部分にサービスを提供している場所になるのです。

長期的には、これらのモデルは、共有された安全性と健康、国内の次元から都市までのスケラブルなモデルを支持する技術実験の参考になります。

## 社会的および環境的持続可能性のモデルとしての転換

中長期的な目標は、従来の住宅の建物内の使用頻度が低く価値の低いスペース、または使用されていないボリューム全体を変換し、それらを共同生活環境に変換することを目的としています。

それらは、個々のスペースを強化する効果も示しています。

例えば、地下室を実験室スペース/ビデオルーム/会議室に、屋根を屋根裏部屋に、屋外活動用の吊り下げ式ガーデン/テラスを、太陽エネルギー貯蔵システムに変換します。さらに、吹き抜けと配分エリアを強化して、光、空気、視界を最大化し、ボリューム内および各住宅ユニット内の自然の緑の存在を最大化する必要があります。自分自身の状態を管理するという名目で、持続可能な垂直循環を考えると、そこでは大規模な流動規模がエレベーターや廊下よりも優先されます。

したがって、共生モデルでは、以前は使用されていなかったものを、収入を生み出すスペースに変換したり、個々のユニットの不動産価値と住みやすさを向上させる、社会的および環境的持続可能性の名の下に、古い機能していない建物を新しい多孔質で多機能な生物に変えることを可能にします。

## マイクロスケールから再生

健康の名の下に空間を再整備し、仕事、教育、社交のための繋がりを生かしてより効率的に保ち、ゆっくりと持続可能な循環を促進します。私たちは都市を多中心システムとしてイメージし、そのさまざまなエリア、近隣のローカルスケールを強化しますが、それだけでなく、周辺と郊外のベルトを見ることによって、密度を再調整する新しいリズムの都市をイメージできます。近年、この方向での都市再生の重要なエピソードを目の当たりにしてきましたが、マイクロコンストラクションでも都市を開発し再生する機会はほとんどありませんでした。

建物または建物のシステムを再評価し、それを共存ロジックで変換することは、都市だけでなく、郊外でも機能するメカニズムです。持続可能で、接続された、柔軟なモデルであり、実験と革新の場であるため挿入された領域に関して積極的な生物になることができます。社会福祉は、マイクロスケールから始まり、自立した安全で持続可能な建築組織のネットワーク、領域内の統合システム、仮想的に強力に接続された都市構造を再生できる新しいスマートコミュニティのエンジンになります。

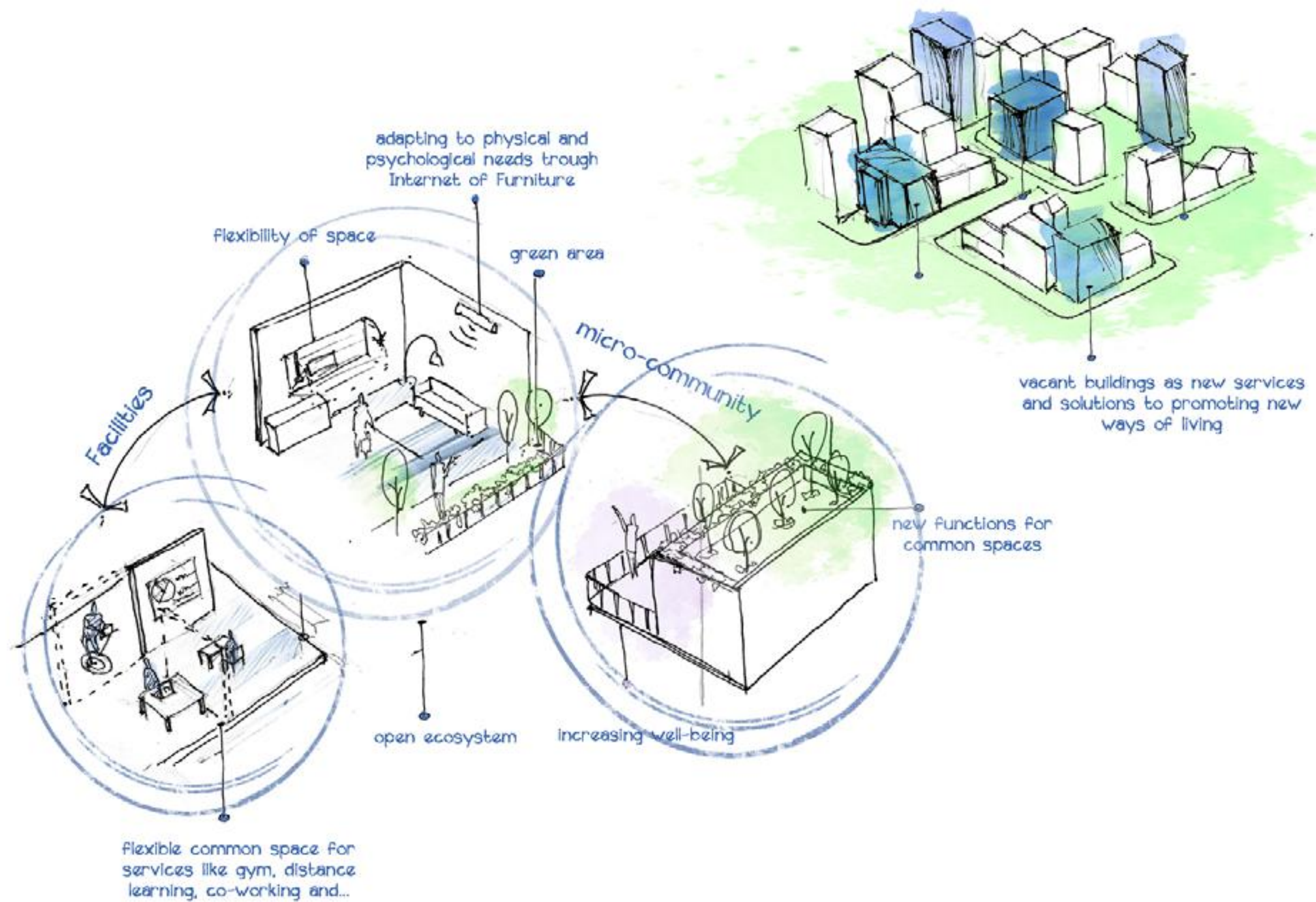
## ダイナミックな住まい

数か月で、私たちは自宅で仕事をし、住んでいる空間の世話をし、家の中で仕事、教育、遊び、スポーツ、家族生活を共有することに適応しました。

人間が非常に柔軟で順応性のある生物である場合、我々の家は次のようであればなりません：共有環境内のさまざまな活動やニーズの重複に適した、変形可能で拡張可能なモジュールによって形成された動的な住まい。（スクリーン付きの変形可能なスペース、引き戸、順応性のある、自然換気された張り出しテラス、大きな透過性と自然光）

住まいと新しい生活環境は、過去の防御策（自然換気、光、投影、自然および抗菌材料）を使用する持続可能な設計にますます依存するようになり、動的な空間の作成、環境の健康制御など、将来の技術を活用し、スマートでパーソナライズされた環境で管理されます。







## 03 職場

編集 DEGW / Lombardini22  
Workitectとのコラボレーション

ワーキングコミュニティは長い間、物理的存在と仮想的存在が混在しており、具体的な場所に部分的にしかリンクされていません。Covid-19は、その重みをデジタル側にシフトすることで、この極性を極限まで高め、最も革新的なオフィススペースの前提条件を明らかにしています。もとに戻ることは、空間の流動性、機能的混成、異なる人々や企業間の「衝突」に新たな問題をもたらすでしょう。これは技術的な健康上の課題ですが、象徴的な課題でもあります。

### 職場の文化と社会的役割

物理的な空間の象徴的な価値は、組織のバランスにとって依然として重要です。ビジネス文化は、そこで蒸留され、強い結びつきと弱い結びつきの間の再構成ポイントです。今日では、潜在的な脆弱性と実際の保護を組み合わせた「システムを有効にする」、つまりショックを管理できる「リスクのない場所」を生み出す必要があります。直ちに、客観的要因（規制による）と主観的要因（リスクの認識）のバランスをとる必要があります。慎重さ、段階的な復帰、明確なコミュニケーションプログラム（変更管理）が必要です。

2つの相互作用するレベルで展開するテーマ：

- 「ハード」レベルの物理的空間（空間計画、インテリアデザイン、システム）。
- 「ソフト」レベルの新しい動作（ポリシーの使用）とテクノロジー。

### スマートな環境と行動

建物のストレステストは不可欠です。建物は、差別化された流れ、区画化、低密度レベルを保証し、頻繁な衛生プログラム（空気と表面）をアクティブにする必要があります。

建築プラントシステムと環境の健康上から期待されるエネルギー性能に関する課題は、とても敏感な問題です。

大きな視点から見ると、タッチレステクノロジー（センサー、自動化、音声コマンド）を実行する必要があります。テーマも知覚的で：共有環境、接触面、健康と衛生の様式に対する過敏症、近接、着用近接センサーは、人と人との距離を制御するための個別のアクセサリとして開発される可能性があります。逆説的ですが、保護することを人に移すことができれば、スペースを変更する必要はないかもしれません。

## 組織の需要と移転

在宅勤務のブームは、予想外の効率性も実証したアクセルです。より多くの調整、より少ない干渉、タスクの実行における順序、遠くでもより多くの接続ができ、また多くの活動は継続することができます、おそらく事務作業の種類に応じて安定することもあります。

- 現実的な生産（より伝統的なニーズを維持し、存在感を維持します）
- 現実のサービス（主にリモートで続行できるようになります）

最近の2つの論文（MITと全米経済研究所（マサチューセッツ工科大学））によると、後者の割合は高くなる可能性があります。職場空間にどのような影響があるかと言うと；

- 需要-在宅勤務の増加により、スペースの必要性を減らすことができます。一方、セキュリティプロトコルは、m2 /人の基準を引き上げることができるため、次のことを要求します。互いに相殺できる2つの傾向。（バランスが何であるかを言うのは時期尚早です）

- 空間共有-新しい特定のリレーショナル空間共有を検討する必要があります。親密または個人的（<0.5-1.2m）、社会的（1.2-3m）、公的（> 3m）な距離は、文化的背景、人々の性格に基づいて変更されます。タスクとビジネスモデル；

- ローカリゼーション-都市近郊の不動産製品の再評価によって、最近の傾向を逆転させることが可能となり市内中心部への魅力（ミラノのマイクロソフトを参照）が増すことによって、新しい決済モデルの誕生だけでなく、コントロールされた、相互交換を伴うバイオレジリエントなハイブリッド「キャンパス」になります。

- モジュール式の柔軟性-経済の不確実性により、モジュール式で柔軟な「瞬時の」スペース占有という企業ポリシーが加速する可能性があります。

## コワーキング

勤務の交代がより頻繁で、内部の移動性が「追跡可能」でない場合、リスクの不確実性と認識はより深刻です。コワーキングはまだその役割を主張できるか？ 共有サービスと収益性の高い共有エリアの活用は変化する運命にあります。より多くの仕切りとプライベートオフィスを予測する必要があり、異なるチームや企業間のカジュアルな会議が少なくなり、会議室の制限、ホットデスクの希薄化を促します。「ハブの関係性」として、それはその運用とアイデンティティのDNAを変更します。

コワーキングの終わり？ おそらくそうではありません。会社の軽量化と変化への適応を視野に入れた、小型化された新たな顧客の流れが期待できます。それは遠隔労働者の新しい傾向のための近接空間を提供することができます

## リーダーシップとスマートワーキング

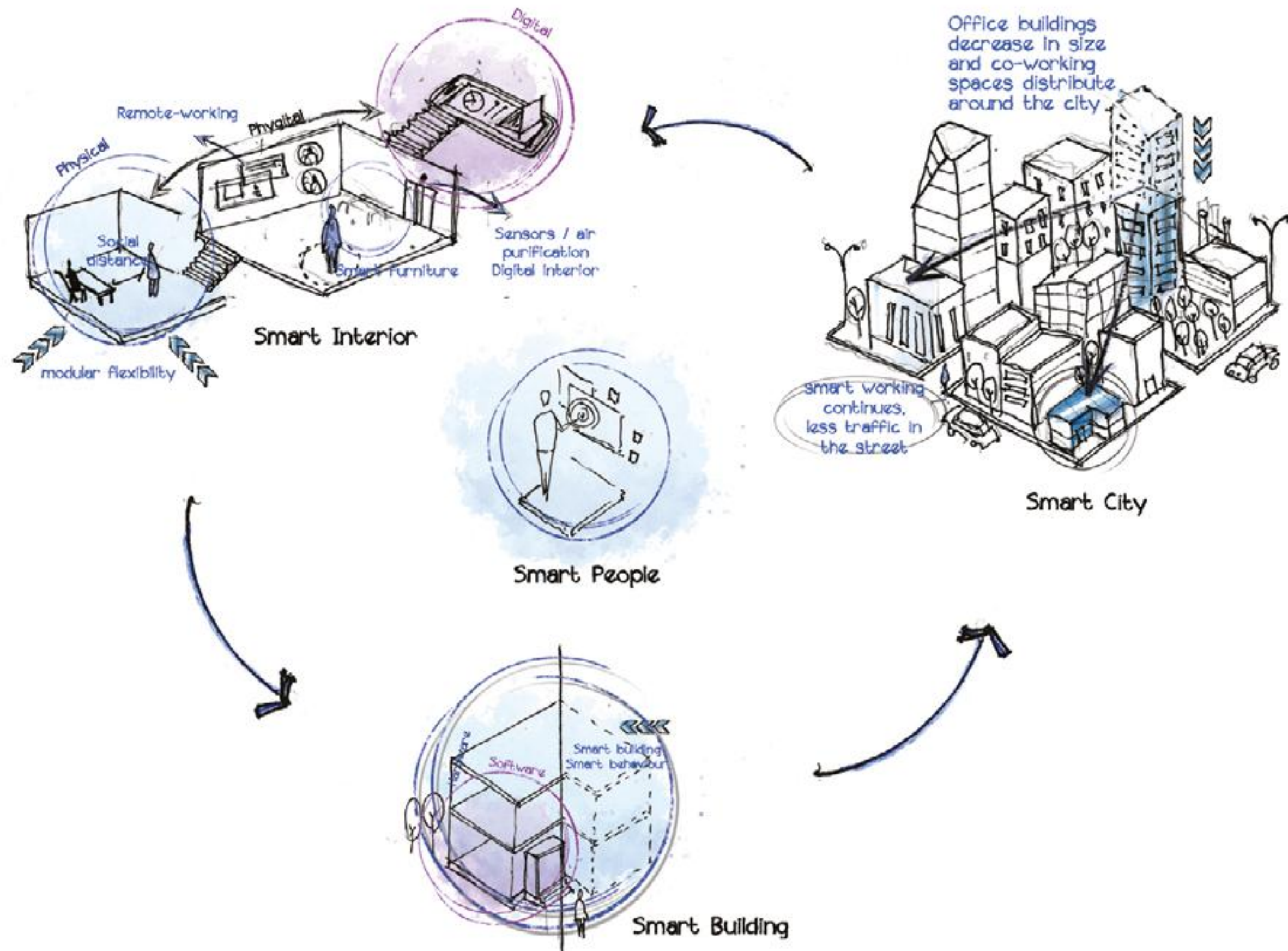
Covid-19によって私たちが広範囲に渡って経験しているリモート操作は、職場での作業の結束の要素を薄めています。管理レベルでは、重点が「職場から労働力へ」シフトし、テクノロジーの役割だけでなく、また関係の継続性を維持するためだけでなく、リーダーシップモデルにも不可欠になります。私たちは、信頼、委任、広範な責任を提供し、プレゼンスではなく結果に焦点を当てる進化したモデルに向けて加速する必要があります。それは、真のスマートワークの文化的手段（HRポリシー、テクノロジー、職場）です。私たちはこのパスの一部であるテレワークに精通しているだけですが、スマートワークはより完全な組織パラダイムです。つまり、幅広いサポート領域（アクティビティベース）で各タスクに適切なスペースと適切な機器を提供できるモデルであり、それを促進します。モビリティとダイナミズム（アクティブデザイン）、要は心身の健康、デスクの共有による知識の交換、個人や仮想チームとの相互作用、クリーンなデスクポリシーを伴という事です。

## テクノロジーと表層

技術はおそらくイタリアの弱点であり、特に領域のつながりの均一性が欠如している場合はそうです。この期間は、現在の状況を強力に後押しすると確信しています。将来への視点から見ると、ますます多くのスペースが物理的（物理的+デジタルの融合）になり、オブジェクト（IoT）との「インテリジェントな対話」が行われ、分析のおかげで解釈できるデータがますます生成されます。この「未来」では、スマートフォンとスマート家具がデジタルインテリアの快適さと強化された体験を提供します。

自然のインテリア素材も、新しい注意を払って設計され、脅威とストレスのテーマに対処します。衛生状態を促進する、またはウイルス量をすばやく排除する「硬い」材料を好みます（銅、鋼、プラスチックの場合、それぞれウイルス消滅に48時間と72時間かかる推定されます）。銅とその合金、真鍮、青銅（少なくとも一般的な領域）などの「古代の」材料、および抗菌性、光触媒性、リサイクル可能な特性を備えた新世代の固体に戻ることができます。それはまた新しい形態の材料認証が考えられます。そして今日これまで以上に関連性のあるアプローチは生物親和性です。





# 04ヘルスケア

編集 Binini Partners  
Centro Medico Santagostinoとのコラボレーション

Covid-19に関連する健康への危機により、大規模プロジェクトへの注目が再燃しました。新しい広範で地域的な医療モデルについて、あなたが人々の家に入ると言うこと、柔軟で効率的なスペースを構築すること、それは個人と一般のニーズをその過程の中心に置きます。

## 次世代の病院

今日、この経験から導き出せる科学的証拠と成功した組織モデルに基づいて、この地域で新世代のネットワーク化されたサービスと構造を、作成または適応させるためのプロジェクトが増々求められています。ケアを効率的で持続可能で、すべての人が簡単に利用できるようにするための住宅に至るまでの、新しい病院、医療および研究センターの構想に関する創造的な仕事、構造と空間は、ケアプロセスの基本的な部分にならなければなりません。それらは利益のための人件費と技術への投資、そして管理コストを最小限に抑えるために、合理的かつ柔軟になる必要があります。現代の病院は、すべての人の福祉と医療の持続可能性に貢献することができます。それは高度な技術的でデジタル化され、患者ケアを科学研究や大学のトレーニングと統合しています。

病院は単一のモデルはありませんが、必要な機能または緊急事態で想定される機能のための多くの「効率的」なモデルがあります。 **効率と柔軟性が合言葉になります。**

新しい病院では、大きくて開いた構造のグリッドが必要です。適切な階間の高さで、制約、パーティション、または分散が可能な機能をブロックするコアがありません。したがって、各フロアは多様な機能に対応し、時間の経過とともに最も変化するニーズやテクノロジーに急速に適応できます。また、それはスタッフの効率を最大化する方法でもあります。 ルートを最小限に抑え、支援を強化し、感染の伝播を回避します。パスシステムとアクセス制御は、病院エリアとその建物内のフローを選択して分離する方法を知っている必要があります、衛生と人と物の正しい配分をサポートします。 隔離された部屋または集中的な部屋に簡単に変換できるシングルルームの拡張の採用を再評価して、アクセス制御、人員の安全、および「ケア」病院の設置のための柔軟なスペースを確保する必要があります。直面する緊急事態の機能で、一日に何時間も人々は、そこで勉強し働くことになります。そして支援を受ける人々のための環境は、優れたおもてなし、安全、快適さ、衛生、空気の質を保証できなければなりません。

デジタル化、自動化、IT、HTA、個別化医療、遠隔医療は、未来の病院をサポートし、職場や住居の人々を結び付けることになります。可動壁を装備することは、工事中に多く排出される、ほこりや汚染物質の排出がないため衛生状態を保ち、将来的にも迅速な柔軟性に対応できます。





## アフターCovid-19の地域のサービスと住宅

都市封鎖の期間は、デジタル管理と地域のサービス開発を強化することが重要になります。ヘルスホーム、かかりつけの医師、診療および外来センターのサポート等、病院の不必要な活動を軽減し、病院の外でも簡単かつ迅速なケアの継続を保証します。これらの構造は、通常重要ですが、緊急時にさらに重要になります。病院の外の状況を監視することができ、感染を阻止し、発生の拡大を防ぎ、自宅で症状を管理することができます。

個人の住居、家のセットアップ、および国内の健康補助器具は、イタリアや海外では、Covid-19の後、根本的に重要なトピックになるでしょう。したがって、プレハブモジュールを介して自分の家に統合できるヘルスケアサポートのための特殊な環境の戦略的な設計が重要になります。

## 素材、システム、空気の質と衛生

伝染病の封じ込めを更に改善するために、各環境の個々のコンポーネントのプロジェクトに対する選択は、素材からシステム、技術から家具、表面から構造の詳細に至るまで、すべてが基本になります。一元化された洗浄および消毒システム、衛生システム、屋内および屋外の空気品質管理、特に自動管理および制御システムを強化する必要があります。

## 既存資産の回収のための投資計画

現在の構造は、人件費、過剰なルート、制御不能な消費、新技術導入の不可能性、耐震および管理の安全性の欠如のために不十分または不合理である場合が多く、可能な限りの低減を達成するために廃止されなければなりません。したがって、それらは、緊急治療室や病院を閉塞させないように、地域または都市の近接サービス、ヘルスホーム、かかりつけの医師のサポート、または高齢者や弱者を対象とした新しい、より安全な住宅ソリューションの為に考えなければなりません。それが機能していない都市再開発事業の場合は、撤回し再考しなければなりません。これは、医療サービスネットワークの近代化プログラムの資金調達にも役立ちます。

## 同居医療施設の管理のための実用ガイド

検疫が終了すると、パンデミックによって「待機」状態に置かれたすべての病気の健康、および治療において、ヘルスケアセクターは新たな感染の可能性を回避し、安全なサービスの提供と確保の必要

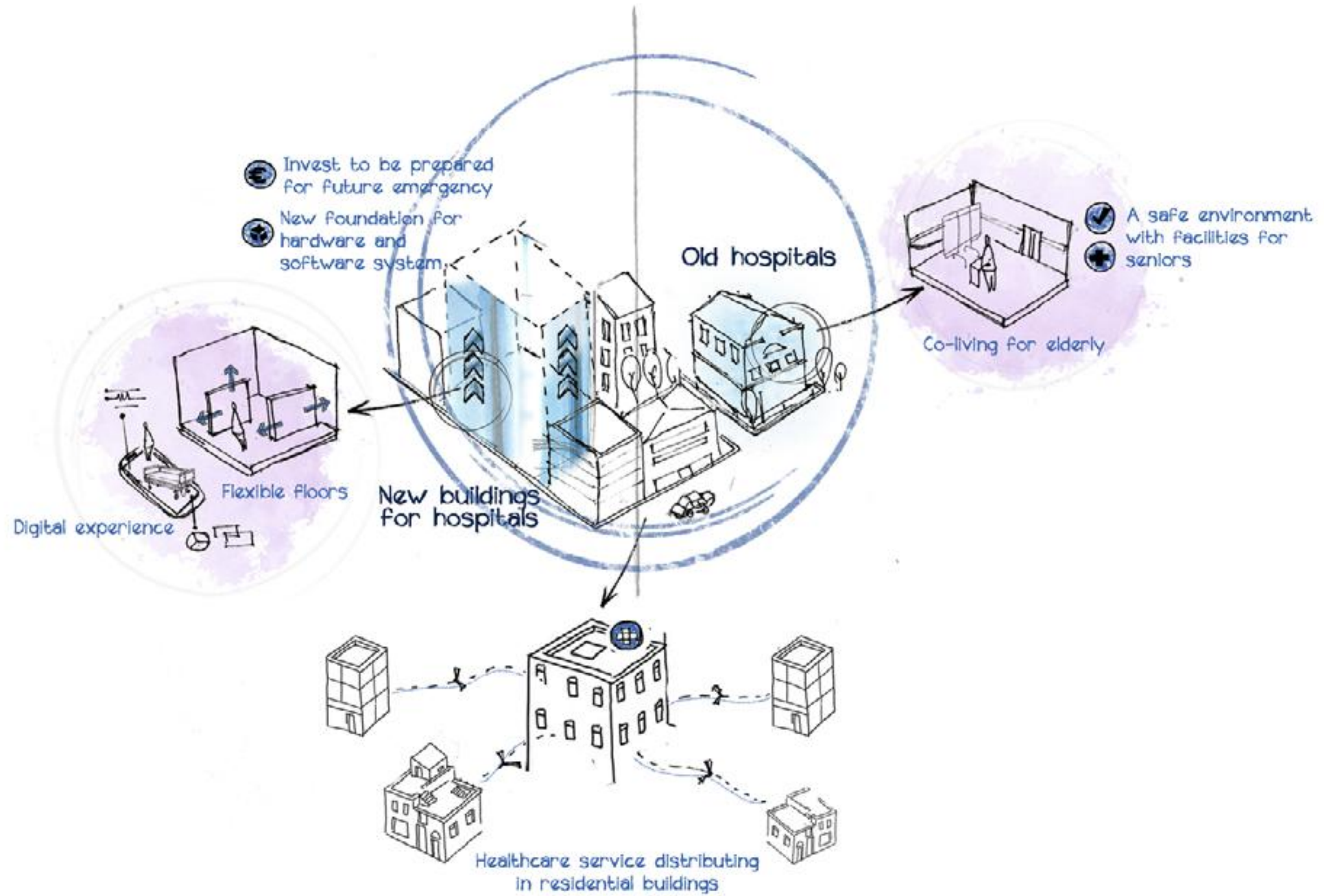
性が義務付けられます。フローとユーザー体験の研究により、医療施設に住むさまざまな人物間の相互作用のポイントを特定することが可能になり、スペースの使いやすさと社会的距離に関する規制の遵守の両方が保証されます。

人と人とのやり取りを制限できない場合は、行動や習慣を変更することで構造的に介入することができます。デジタルツールの導入を通じてユーザー体験に基づいて行動することで、フローを変化させることができます。

## デジタルの視点

緊急事態宣言後の各活動は、デジタルテクノロジーによって運用が可能になる組織モデルの採用が強く特徴付けられます。これにより、例えば、人、機器、および資材の動きの追跡と監視が可能になり、Covid以前のレベルのサービス/または製品を保証する必要がある一方で、商品および人々、ウイルスとの共存のために実施されるというより大きなコミットメントが、必然的にデジタルコンポーネントが優勢である新しい健康モデルにリンクされます。

物理的なスペースの使用を制限して、オフラインからオンラインを可能にするすべてのアクティビティの移動を勧めます。最も脆弱で、最大のリスクにさらされている患者専用のプロトコルと保護されたパスを作成し、さまざまな医療施設間で共有される共通の臨床書類を作成し、専門家がレポートをデジタルで共有および読み取ることができるようにします。構造内の動きを追跡し、ジオロケーションを介して自動的に受付/支払い操作を実行します。





# 05 レストラン

編集/ Lai Studio  
Food Lifestyleとのコラボレーション

制限措置は、食品分野の複雑なエコシステム、その中心部を直撃し、その収益性を大幅に制限し、多くの人々の生存を脅かしています。緊急事態の前には、かなり未来的であるように思われたモデルは、可能な限り最善の方法で再稼働に直面した人が、自分自身の向けるべき基盤となっています。フードデザインへの貢献は、適応と進化の道筋を示す上で決定的になる可能性があります。問題のある後方モデルのために、既に完全なアイデンティティの危機にある分野では、再生されたこの危機から出現する可能性があります。品質、創造性、革新はすべての将来のシナリオの中心になければなりません、新しい機会は新しいアイデアやフォーマットに開かれることでしょう。

## フェーズ2での施設の開設

ハイエンドまたは体験型外食産業の条件は異なります。状況によってペナルティが課せられますが、不快感を軽減し、中期的な解決策を示すために、有効なアイデアとグッドプラクティスがこの分野からすでに出現しています。

一方、集合的な外食産業は、承認およびテストされた健康や衛生基準に従って既に機能しています。温度、PPE、アクセス要員の数を監視するセルフチェックシステムなどの適切なツールを介した要員監視システムの採用により、この重要なフェーズでの運用が容易になる可能性があります。

中期的な観察によると、実際に実行可能な調整と消費者の行動の両方を綿密に分析する場面が出てきます。

## 緊急時の代替方法：テイクアウト、ガストロノミー、市場

個人商店のカテゴリーでは、流動性と安全性の両方の理由から、明白にテイクアウトやデリバリーを実践する可能性を強く求められています。テイクアウトは、店内の混雑を避け、スーパーマーケットへの流入を減らし、多くの人々の生活を簡素化する有効な方法です。

マイクロマーケットまたはグラブアンドゴーでは、飲み物やその他の製品と一緒に既製の食品を直接引き出す利便性もあり、いくつかの不便を解決し、宅配の代わりに中小規模で利用できる組織モデルの概要を示す可能性があります。品質やショートチェーンガストロノミーの再評価は、マイクロモビリティとよりアクティブなモビリティへの誘因に応え、近隣経済性を生み出す可能性があります。

## 進化のシナリオ: フードサービス、配達、新しいキッチンモデル

突発的な危険を避けながら形成される新しい習慣に迅速に対応する能力は、将来に向けての再始動するための決定的な要素になります。

職業と規模によって、集合型外食産業の大手企業は、この分野を商業的な外食産業に必要な経験レベルまで引き上げることができる変革の主役になる可能性があります。高い安全基準はその人のニーズを満たし、満足させる品質と能力と組み合わせられれば、新しい集合的なニーズに具体的な形を与える可能性があります。アクター間の競争は、サービスのレベルと新しい生産技術に焦点が当てられるので、デザイナーや食品ビジネスとのコラボレーションは、大きな違いを生み出すことでしょう。

食品配達の現象は、この危機の少なくとも 3 年前に現れ、変化が起ることを予測し、新しい習慣やライフスタイルによって決定される需要の高まりに答えを提供していました。

調理センターを備えた外食産業業者がゴーストキッチンやクラウドキッチンに変わる一方で、革新的なソリューションを立ち上げたり、バーチャルキッチンなどのスペースを活用したりできる新興企業にとって興味深い機会が開かれるでしょう。

実際に組織化されたオペレーターは、管理と運用のコストを削減し、キッチンの50% をスマート キッチンに変換し、残りの 50% をダークキッチンに変換し、個別のスペースとアクセスを管理することで、店舗の座席の削減に対応できるようになります。顧客と配達間のフローは、購入、共通プロセス、規模、の経済を最適化します。

これらが正しく設定されれば、ブランドのパフォーマンスと従業員の雇用の改善、サービスモデルの再設計、人材トレーニング、サプライチェーン自体の再設計が可能になります。

食品の安全性、厳格なプロトコルと規制は、新しい現実の運用の基礎でなければなりませんが、配送システムとそれらの条件の迅速な改善が望まれます。

## 空間のデザイン: 快適さ、テクノロジー、環境

このコロナウイルスによるパンデミックは、私たちが呼吸する空気のように根本的な重要性を考えるように促しています。アクティブな衛生プロセスは、閉鎖された環境で空気の好循環を確立するための革新的なソリューションを提供します。既存のシステム、壁、またはモバイルデバイスへの最小限の介入で、空気との接触面をウイルスなどの有害な物質から効果的に浄化することができ、消毒プロセスにおける人間の介入の必要性も減らし、再社会化に伴う不安を和らげるのに役立ちます。

スマート材料を使用して、表面とコーティングの両方の光触媒プロセスを促進し、それらを活性化するための光を効率的にプロジェクトすることも同様に有益です。ホームオートメーションとセンサーは、プラントエンジニアリングから家具へと移行し、タッチレス操作を推奨します。

外食産業スペースの未来に目を向けると、新しい生産技術によって





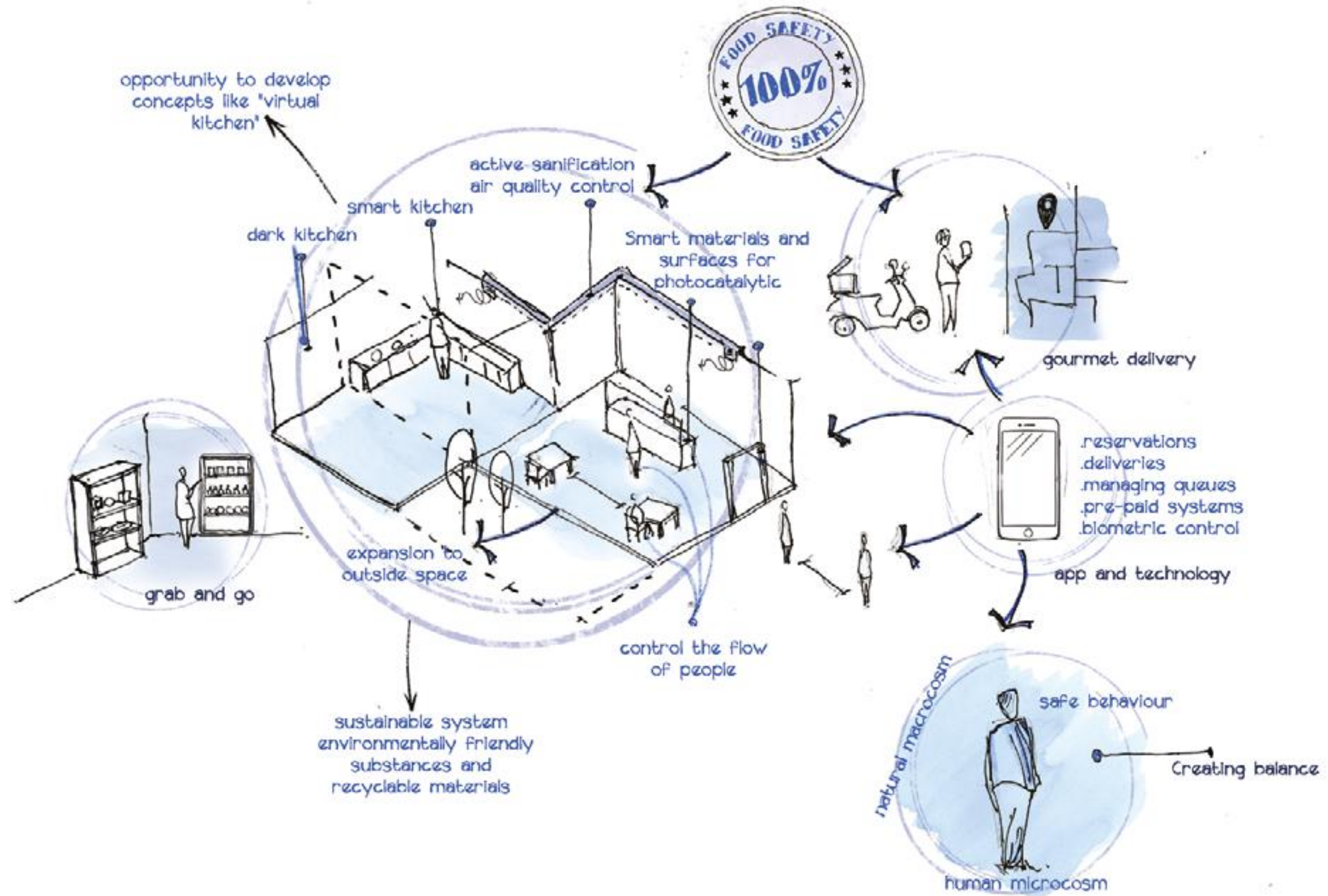
スペースを開放し、より一般の人々を体験型のスペースへと割かれるようになるだろうと言えます。内部空間を巧みに細分化することで、プライバシーと快適さを高め、高度なデータ駆動型アプリケーションを使用することで、顧客との関係がより緊密で新しい形になり、またプロセスが改善され、無駄が削減されます。オペレーターの創造性と能力が、現在の卓越性のレベルを超える点まで強化されます。経験の独自性と信頼性は、広範囲と言うだけでなく、成功のための本質的なパラダイムとして確認されます。

最後に、現在のシステムの重要性を考慮に入れた景気回復の道筋をたどるためには、持続可能性の観点から考え続けることが重要です。

生産を奨励し続けながら循環型経済を鍵と考えるなら、税額控除などの一般的な財政措置を通じた環境への配慮、または完全にリサイクル可能な製品や材料の生産と調達を奨励し続け、適切な廃棄慣行を進めなければなりません。この意味で、デザインにおける研究の重要性は、パッケージングから始まり、工業生産のガイドラインの指示に至るまで、すべてが戦略的でなければならないのです。









## 06 リテール

編集 Piurarch

ここ数週間に経験したロックダウンと社会的距離の現象は、社会の経験と象徴的表現としての消費の文化に大きな影響を与え、それを根本的に変えるほどです。徐々に「通常」に戻ることで、社交性とコミュニティへの本能と欲求が再び強化される可能性さえありますが、確かに私たちの生活のほとんどの領域（仕事、自由時間、ショッピング、スポーツ）は、パンデミックが終わった後でも、それらは物質と形態の重大な変化を経験するでしょう。

小売に関して言えば、店舗は再び自らを改革しなければならなくなり、電子商取引の到来によって引き起こされた危機の後、今日、私たちは市場の意志に対してまったく異なる対応をしなければならないでしょう。

ここ数週間、私たちはすでに大きな変化を経験しており、食品の購入が私たちの日常生活の唯一の（許可された）活動になっています。私たちは現在実験を行っている最中で、おそらく私たちは、近い将来のそれを予見する新しい隣人と、購入のダイナミクスにすでに適応しています。実際、近年進行中の小売スペースの革命は、緊急事態によって突然危うくなりました。そのことによる社会的側面が強調された体験や、娯楽空間の探求は、今、少なくとも短期的にも再解釈される必要があります。

電子商取引に対する「抵抗」の中で成熟したいくつかの信念が、具体性を失っていると言う、大きなパラドックスも生まれました。今後、小売体験のデジタル化が進むのか、それともパンデミックが終息する頃には、いわゆるリベンジ支出と娯楽や社交性へのニーズが優勢になるのでしょうか？

短期間で、社会的距離が私たちの日常生活の習慣になりましたが、限られた人数の店舗へのアクセス、間隔をあけた列、厳密に必要な時間、それらは「気晴らし」のためではありません。したがって、これらは調整された買い物で、衝動的ではなく、既に蓄積されたものです。

この方法はすでに私たちの日常生活に介入している可能性があり、食品以外の他の小売カテゴリーでも当てはめることができます。これにより、購入プロセスがより重要になり、必ずしも消費が減少するわけではありませんが、（今日すでに行われているように）他のチャネルの物理的な店舗を超えてデジタルを活用し、ますます魅力的な仮想体験を作成することになるでしょう。そして、オフライン/オンライン統合がこのシステムの中心になります。

この新しい「文化」購入方法が商業スペースの物理的な変化にどの程度影響を与えるかを予測するには、さまざまな商業タイプとさまざまな製品分野を区別する必要があります。ただし、これは反映する分野を大幅に拡大しますが、一般化されたルールの統合と定義を確実に許可する物ではありません。

確かに、社会的距離のテーマは、エンターテインメントと体験が商業活動を補完し、ビジネスを超えた集まりの概念を促進するハイブリ

ッド環境を作り出すことを目的とした、最近実施されている豊かさの戦略と直接的には矛盾します。小売：フードコート、子供の遊び場、製品のプレゼンテーション/デモ、プロモーションイベントなどが例に挙げられます。居住地からの距離なども挙げられ、したがって（私的なものに加えて）公共交通機関を使用する必要性もブレーキになります。

答えとしては、もはや魅力的なエンターテインメントのモデルではなく、製品体験に焦点を移すことです。この意味で、近年すでに進行中のショッピングセンターの危機は加速し、独立型店舗やストリートショップに有利になります。

人の流れが商業活動の原動力となる市場や活動についても同じことが言えます。対称性により、店舗内での存在の同時性が限られているため、小さな身体活動でさえ困難になります。これは、中規模および近隣のストリートアクティビティ、またはいずれにしても、中心部または高級な住宅地でのアクティビティに役立ちます。したがって、スペースの規模は大きくなりますが、平方メートルあたりの収益性は低くなります。つまり、多くの商業活動の持続可能性は、実店舗を効率的なデジタル戦略と統合する能力にさらに依存することになります。このデジタル化の側面は、現在よりも物理的な店舗に直接的な影響を与えるでしょう。

例えば、ショーケースのテーマが中心になります。実際、製品のプレゼンテーションは、潜在的な顧客に関心のあるコンテンツを外部から視覚的に伝える機会として理解されており、マーケティング戦略において重要な役割を果たします。効果的なアイデンティティとイメージ、そして空間の技術的品質に注意を払いながら、あらゆるショーケース（物理的およびデジタルの両方）を活用する必要があります。

特に、ファッション部門ではさまざまな複雑さに直面する可能性があります。まず第一に、高級品、既製服、一般市場などを含むセグメントを対象とするさまざまなターゲットについてです。ファッション業界を分析すると、すでに進行中の極端なデジタル化に加えて、オフライン活動の中心となる顧客体験とサービスの品質、および即時性を再考する必要があると仮定することができます。オンラインでは、有効性を優先する必要があります。2つの現実の間の増々の纏まりのある相互作用が確実に必要になります。

オフライン活動では、スペースは新しいニーズに対応し、無人のキャッシュデスク、自動販売機、その他の統合された専用サービス（特に高級品セグメントの予約によるショッピングなど）を主役にする必要があります。一方、貸衣装サービス、店員とのビデオコンサルティング、クリック & コレクト、仮想試着室、自宅試着室、ロッカーでの配送（接触を避けるため）、デジタル パーソナルショッパーなどのすべてのデジタル統合サービスは、プロモーションに貢献し、小売店の触媒として機能します。

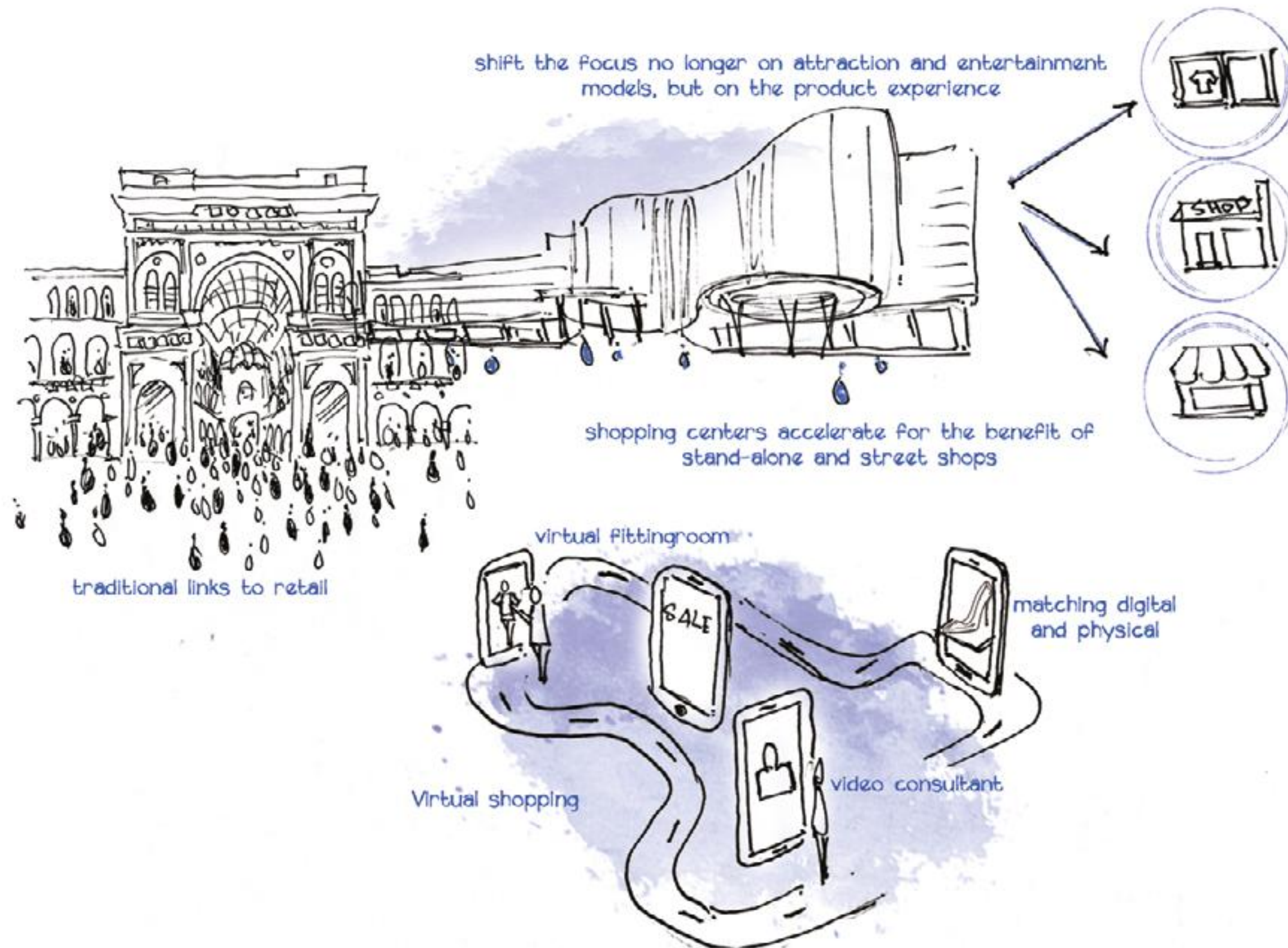
したがって、モバイル小売/電子商取引と実店舗の統合は、後者の生き残りに不可欠です。この証拠としては、ここ数週間、イタリアでの商業活動の閉鎖が電子商取引の崩壊と同時に起こったという事実です。これは、この統合がすでに進行中の他の国では起こらなかったことです。

再考する必要がある店舗の別の領域は、試着領域です。贅沢品では、予約による買い物、衣類の消毒、安全な距離を保つための大きな試着室などのプロセスを実施することにより簡単になります。ようは歓迎をするパーソナライズされたオファーを妥協しないシステムで提供されるサービスのレベルにスペースを見つけることができます。一般市場では、新しいルールを実施するのがかなり困難な場合でも、デジタルシステムが普及する可能性があります。この点に関して、仮想試着室システムはすでに存在し、衣服の試着をシミュレートするために、アバターを作成しテストされています。

一般市場での小売り販売に関しては、大規模な混雑したスペースを特徴とする定義上、顧客を店に戻すためには、非常に厳格な標準的基準から抜け出す必要があります。







## 07 バンキング

編集//MBA + D Matteo Belfiore Architecture  
+ Design

この健康への危機が私たちの近い将来にどのような結果をもたらすかはわかりませんが、個人および集団の安全を目的としてプロジェクトするには、世界とそこを移動する人々との間の関係を理解する方法を深く見直す必要があります。専門機能（タイプ）と関連する専用ユーザーの複合体、近代建築の歴史は、社会の変化に適応し、常に変化する建築を提案してきた日本のメタボリズムの考えを私たちに与えてくれました。

## ソーシャルディスタンスからフィジカルディスタンスへ

親密な関係の場合、文字通りの意味で理解される社会的距離ではなく、物理的距離のみを実践する必要があります。つまり、社会的距離は、技術的な性質の物理的な距離として理解され、同時に感情のおよび社会的なつながりを維持します。これは確かに、建築家、デザイナー、銀行の幹部にとって主要な課題です。社会的距離は、日本人的方法で理解されます：物理的な距離だが意図的な近さ。

## 日本のルール：使用例

日本の文化では、境界は押し付けられるものではなく、象徴的に示唆されます。それは、西洋で私たちが慣れ親しんでいるプライベート空間の分離を不可能にする、細長い木と紙の引き戸に示されています。集団的なスペースは一般的であり、個人的なスペースよりも優先されます。しかし、日本の文化は個人よりも集団を、共通の利益よりも公共の利益を優先します。

## 減らして希釈する

削減と希薄化は、将来の銀行組織の指針となるでしょう。混雑を避けるために、枝の数とサイズを減らし、使用を希釈します。これにより、テレワークによる人事管理も改善されます。お客様との関係はリモート接続に一部を任せ、リモートバンキングモデルへの移行が加速するのは、顧客が健康危機に陥った数か月間に仮想サービスの世界に慣れたと言う事実によって促進されます。

銀行は、社会的距離のルールに準拠するために、支店を再構成する必要があります。

## フィジカル・ディスタンスング時の空間構成



主要なプロジェクトの原則は、ハードウェア（物理空間）とソフトウェア（その管理）を区別することです。前者は、時間の経過とともに柔軟性と変化を促進するように設計する必要があります。後者は、限られた予算で環境への影響を抑えながら、ニーズに応じて変更できなければなりません。

銀行の支店への介入は、一般の人々専用領域だけでなく、従業員が占有する領域にも関与する必要があります。これらのスペースは、職場のデザインに関する最新のトレンドに適応できます。たとえば、場所に関係なく、ユーザーとユーザーが実行するアクティビティに注意を向ける ABW アクティビティベースのワークスペースの概念を適用することによって、そのためのオフィスや自宅などのスペースと家具は、さまざまな時間のさまざまな活動に柔軟に対応できるように設計されています。

## コーポレートアイデンティティとしてのサイネージ

サイネージは、銀行のユーザーが支店を訪れたときにシンプルな行動が取れるように案内されるツールでもあります。スペースと家具に関しては、サインの貼り付けや文字やメッセージの投影の採用により、ほぼ完全な柔軟性と可逆性をサインに提供する必要があります。注意深く設計された場合、サインは表面とスペースに装飾的な価値も得ることができます。

情報システムは、環境毎に休息をする為に、そして社会的距離の指示を含む施設の計画の存在下に於いて、外部から開始する必要があります。内部では、床、天井、壁に描かれたグラフィックメッセージでコミュニケーションが行われます。床の標識は、道、停留所、社会的距離を案内するために、最も重要なものの1つです。カウンター前には、床に描かれたシンプルな銀行のロゴで安全距離を調整できます。最後に、銀行のマスコットは、安全な距離を保証するために、待合エリアのブロックプレースとして段ボールまたはアクリルのシルエットになります。

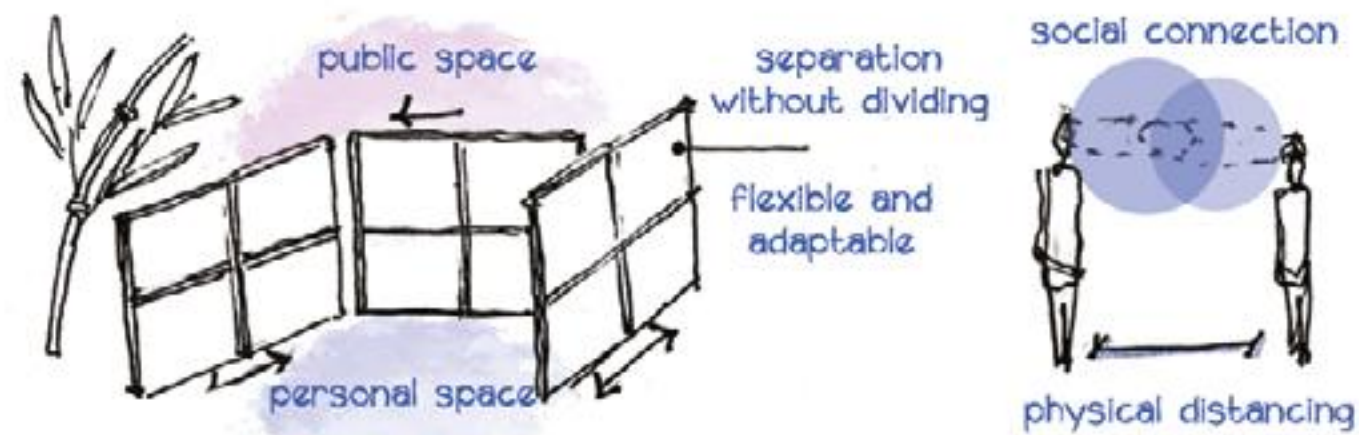
## テクノロジーの役割

セキュリティの概念は銀行の考え方に固有のものですが、これからは、まず何よりも健康のセキュリティという、より広範で革新的な意味を持つ必要があります。それは、以下を含む複雑な介入と行動を通じて追求されなければなりません。:

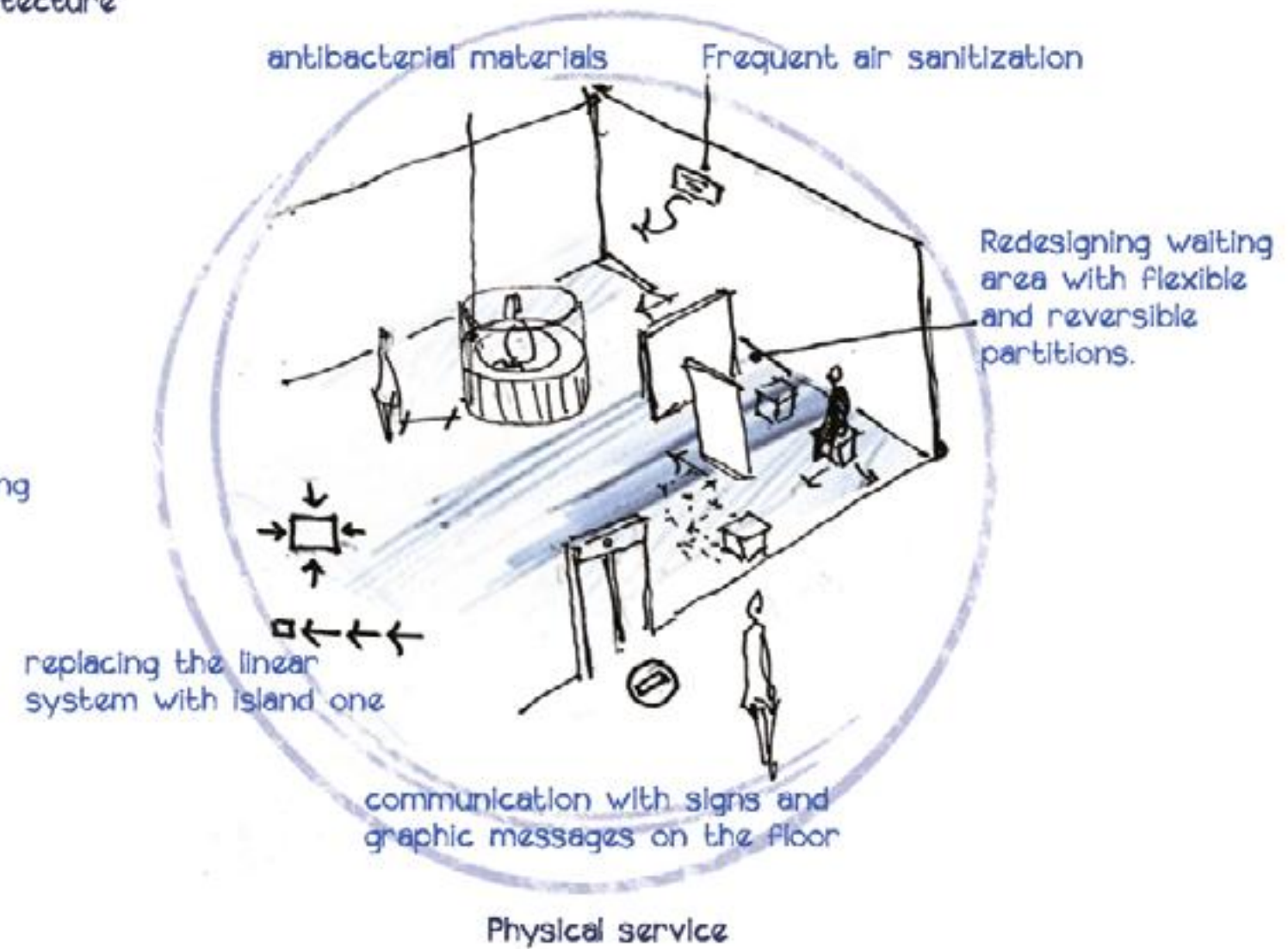
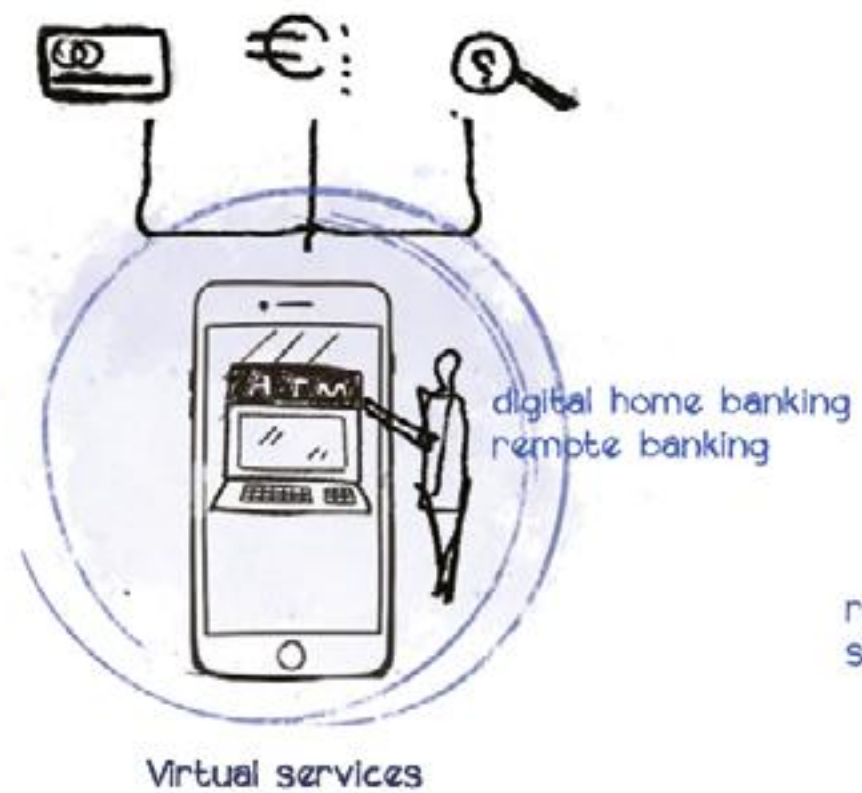
- 差別化されたフロー、細分化、低レベルの密度。
- 頻繁な空気および表面の消毒プログラム。
- 抗菌素材の採用と、表面を自由に保ちながら掃除を容易にするクリーンデスクポリシー。

- タッチレス技術の拡張: ユーザー間の距離を制御する近接センサー。内部の滞在数を一定に保ちながら、入口と出口を調整するための入口のセンサー。マスクを着用していない人を識別する顔認識。照明、リフト、ドアなどの自動化と音声コマンド。
- ユーザーの携帯電話のホームバンキングソフトウェアの効率を向上。そして、支店での操作を制御する機能の強化。

安全コンセプトの改訂には、今日では、ほぼ完全に温度調節と強制換気システムに委ねられている環境ケアの質への反映も含まれていなければなりません。この問題は、何世紀にもわたって私たちの建築の伝統を特徴付けてきましたが、現代では放棄されている、自然換気と受動冷却の伝統的な技術に部分的かつ漸進的に戻ることによって解決されます。最小限のプログラムとして、少なくともハイエンドの交換および空気ろ過システムを採用します。中国では、これらの工場の平均的な品質向上により、短期間で仕事に復帰することができました。「窓を開ける」能力を回復し、自然換気の恩恵を受けています。



Japanese Metabolism, an ever-changing architecture





## 08

## ホスピタリティ

編集//ザハ・ハディド・アーキテクツによる  
Progetto CMR とのコラボレーション

ホスピタリティ業界では、近年、多くの重要な革新を遂げてきました。ますます排他的で差別化された観光を求めるマストツーリズムから、成功したモデルを大規模に複製しようとするホテル、アトラクション、場所性の特徴へ注力することによって、差別化を図ることまで提供するホテルまであります。

ビジネス ツーリズムと従来のツーリズムは交差し、ホテルは効率性、迅速なチェックインまたはモバイル チェックインを重視し、F&B（飲食）は最小限に抑えて、ゲストが都市を発見できるように勧めています。

今後数年間で観光は変化するだろうことは、疑いの余地がありません。私たちは皆、私たちのニーズにこれまで以上に気を配り、施設の品質と衛生状態をより綿密にチェックします。ホテルは、特にプライバシーと各ゲスト専用のスペースに注意を払いながら、超豪華な業種からインスピレーションを得ています。

**終日食事ができる概念**が見直され、ルームサービスや料理の可能性が広がり、一時的な宿泊施設への投資が減速する可能性があるため、ホテルはサービスアパートメントモデルに近づこうとしています。

**共用エリアに関しては**、これらは再設計し、それぞれの部屋とゲスト間のスペースを確保する必要があります。

これらの変化では、美学が特定の役割を果たします。

この状況は、私たちの美しさの認識に影響を与えるでしょうか？

電気自動車が生態学的特性に基づいて新しい美学を課すことに成功したのと同じように、ホテル分野は、新しい性能に基づいて、美学、特にインテリアデザインに於いて変化するのでしょうか？

暖かく自然な素材は、より簡単に掃除ができる素材のため、その余地を残しています。逆に、人工素材は寒すぎると見なされて消えてしまいます。そして私たちは皆、クリーンでエレガントで効率的なラインを探しています。おそらく私たちの中では準備ができているであろう新しい美学の考え方です。

ファサードは防水性と耐温度性だけでなく、汚染防止にもなるように設計されるのと同じように、システムはより効率的な過システムを可能にするように**再設計されます**。

新世代のホテルはすでに存在し、ホスピタリティは常に革新が続いている業種であり、Covid-19後の再生において新しいニーズを統合し、機会を見つけて決意を持って革新を続けます。

ホテルとリゾートは新しいニーズに対応する必要があり、事業者は世界的なパンデミックをイノベーションの機会として利用するために、顧客の希望と懸念を予測する必要があります。

私たちデザイナーは、実用的な問題を解決し、新世代の宿泊施設の美学、規制、品質、管理システムを再定義する革新的なソリューションを見つけることが求められます。

**中長期的には、ホスピタリティの問題は、パンデミックの危機によって**

ホスピタリティ業界にもたらされた損害を食い止めるために、一連の是正および提案と行動を必要とします。平常時も、緊急事態が発生した場合も、宿泊施設が劇的に空いて未使用のままにならない方法を再考する必要があります。スペースの柔軟性は、この新しい戦略的アプローチの基本的な設計パラダイムになります。

ホテルチェーンは、スペースをハイブリッド使用するためのソリューションを導入し、ホスピタリティ以外の機能にそれらを割り当てて、部屋が潜在的に占有され、夜だけでなく 1 日 24 時間利用できるようにすることができます。フレキシブルなホテルの、この新しいビジョンに合致する一つの方法はオフィステルです。オフィステルは、オフィススペースとレセプションスペースを組み合わせたもので、部屋は職場と宿泊施設の両方として使用できます。オフィスから遠く離れた場所にあっても、何千人もの従業員が非常に高い生産性を維持している最新の働き方を考えてみてください。

時間軸を長期的に延ばし、新築や既存構造の深層的再開発を考えると、中・高級ホテルのモデルに近づくことにより、顧客あたりのスペースが大きくなるソリューションが好まれることが考えられます。

**ただし、現在の状況では、他の興味深いシナリオも開かれます。**健康、静けさ、大衆からの自発的な「孤立」は、観光の新しいフロンティアが開かれる可能性があります。例えば、陸路および/または水路で、おそらく個人の移動ユニット（移動住宅で有名な）に戻ることがわかります。そして、テクノロジーと衛生に気を配りながら、今日の旅行者のために考え直してみませんか？

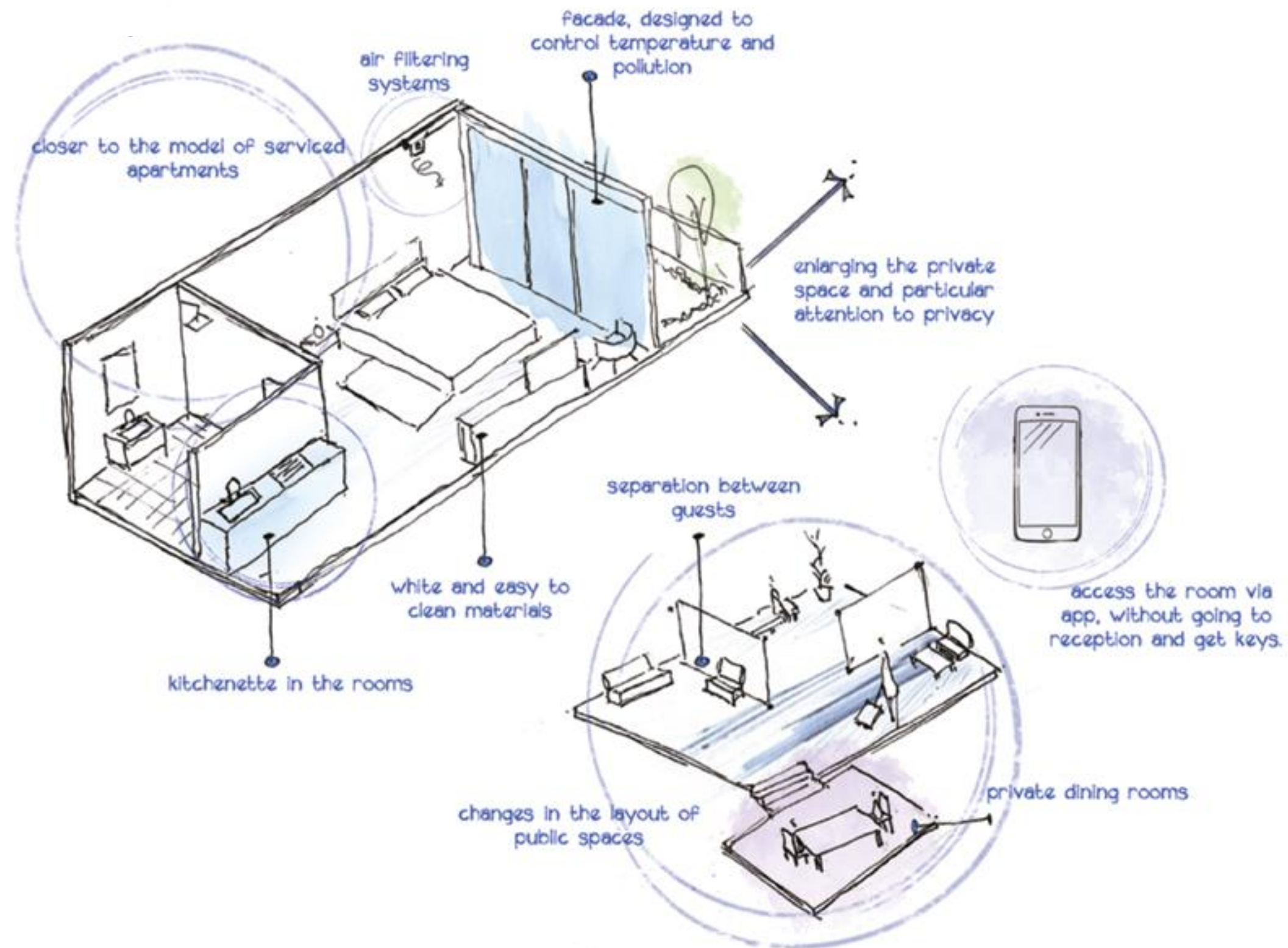
アメリカでは、ほとんどの休日をプレハブ住宅で過ごす伝統と確固たる歴史があり、それが解決策になる可能性があります。所有または賃貸されている土地では、これらのデバイスが観光客向けの宿泊施設の代替手段になる可能性があります。さらに、過去数年間、多くのプレハブ住宅メーカーは、これらのモジュラー環境の設計を、安全で自家発電のエネルギー装置を備えた、リサイクルおよびリサイクル可能な材料を使用し、完全に持続可能なソリューションに向かっていきます。

人里離れた静かな場所を再発見するという観点から、興味深い機会を提供できるもう 1 つの側面は、村の集まりやほとんどの家屋などが放棄されたままの集落です。実際、私たちはこれらの現実に新しい命を与えることを考えることができます。例えば、空き家になった家を広く受け入れられるシステムに変えることなどです。イタリアでは、「Albergo diffuso」と言ういくつかの成功したエピソードがあります。これらは、防御と保護の目的で綿密に作成された、古代の魅力的な都市システム内に分散された中小規模の住宅ユニットです。

ホスピタリティは、健康と、これらのスペースに住む顧客のケアをするという考えと密接に関連しています。まさにこの理由から、ホテルや宿泊施設の「衛生認証」はすでに考えられており、国際的な認知度を

示す星のカテゴリーのように、構造の安全性の程度を顧客に示す宿泊施設を受け入れています。それは建物の入り口に特別なグラフィックがあり、健康と安全の印になります。





# 09 パブリックスペース

編集//Progetto CMR

Covid-19 の健康上の緊急事態は、静けさ、安全性、住みやすさへのより大きな感覚を促すために、都市空間を再考するという繊細で必要な問題を提起しています。特に、2020年は新しい社会性が発足したため、パブリックスペースの考え方は根本的な変化を遂げています。新しい設計の閾値は、少なくとも最初の期間では、社会的距離を支配的な要素として必然的に考慮する必要があります。

## 公共空間の歴史的進化

歴史は、以前の健康上の緊急事態と共に、その後の変化が新しい計画をする時期の到来を告げたことも教えてくれました。例としては、1920年代に結核が蔓延した後、モダニスト/合理主義運動の誕生を目撃したときの出来事が挙げられます。厳格な建築は、装飾を減らしても美しく、支配的な白い壁と大きな窓があります。しかし、それ以前の1600年には、ペストの蔓延が、運河と屋外下水道の閉鎖の主な兆候であり、都市空間を拡張して換気を改善し、市民間の距離が近づきすぎるのを防ぐという新しい都市の概念を促進しました。

2020年、私たちの都市の公共の場所はどのような変化を遂げるのでしょうか？

## ニューノーマル、ソーシャルディスタンス

「社会的動物性」としての私たちの性質上、他の人々と一緒にいて集合的な経験をするのが真実であるとすれば、集合の概念が異なる方法で経験される可能性が最も高いこともまた事実です。社会的距離は、すべての人の健康を確保するための最初の効果的な手段です。ホスピタリティ、エンターテインメント、外食産業、貿易のそれぞれの場所は、新しいガイドラインに準拠するようにスペースを適応させる必要があります。場所の一定の衛生状態を保証する材料と装置の使用を支持する必要があります。したがって、オープンスペースや集合ペースも再考する必要があります。

## スマートシティから安全な都市へ

近年、都市の課題はスマートシティによって支配されています。スマートプロジェクトにより、私たちはすべての都市部のテクノロジー、広場から小道へ、輸送システムおよびサービスの利用、接続と技術に向けた絶え間ない進歩を含む前例のないデジタルのチャレンジに取り組みました。

今日、スマートはもはや十分ではありません。さらなるステップは、安全な都市に向けたものです。テクノロジーが安全性と空間の制御の必要性と対話し、人々の静けさの感覚を回復する都市のモデルです。またデータツールは、感染者と危険にさらされている人々（高齢者と複数の病気を持つ市民）の両方を特定するのに役立つ必要があります。検出可能な状態（



ウイルスの検出のための医学用語)を支持して克服しなければならない人体のプライバシーの問題になります。したがって、この新しいアプローチは、都市計画を導くために、スマートと安全の2つの概念を必ず組み合わせる必要があります。

全体としての都市成長のマクロレベルでは、今日見られるメガロポリスモデルから遠く離れた多中心都市を考えることが望ましいでしょう。市民に適切なサービスを提供できるいくつかの地域で再機能化された都市は、いくつかの都市地域(教育、商業、医療サービス、地域福祉)への活動の集中を回避し、持続可能な交通システムを促進します。

## スポーツ構造の進化可能なモデル

人々が平穏で安全な生活に戻れるように、スポーツイベント専用の場所を含め、集約場所を再考する必要があります。特にスポーツ施設の場合、スポーツイベントに従事する人々を含め、人々が安らぎと安全を持って通常の生活に戻ることを確実にするために、例えば、異なる時間に予約することで、人々の入り口を分割してプログラムすることができ、同時に、回転式改札口を通過するときの体温や生体認証など、より詳細なチェックを実行できます。スポーツイベントが終了したら、この時点で小グループ毎に出口を提供し、試合の最後に観客を「楽しませる」ソリューションを開発することで、すべての観客が同時に外へ出するのを避けることができます。例えば、特別なアプリを介して、人々がそれぞれのデバイスで、主役からのインタビューや独占的な寄稿で試合のハイライトを放送したり、食べ物や飲み物を注文してから、スポーツ施設内のバーやレストランに時間どおりに到着したりできます。

このことを念頭に置いて、システムへのアクセスやシステムからの退出を待っている人々にさまざまなサービスを提供するサポート、および待機スペースの存在が重要になります。補完的な機能とサービスは、このシステムが効率的に機能するための鍵です。したがって、小売、エンターテインメント、美術館のスペース、レストラン、さらには公園など、差別化された体験を提供することに焦点を当てることがますます重要になっています。また、すべてに解き放たれたエリアである公園では、人々がすべて1か所に集まるリスクを冒すことなく楽しむことができます。利用可能になる機能の中で、さまざまな目的のために、診療や医療支援などの追加サービスを提供することは興味深いかもしれません。平日の健康活動の提供、イベント中の観客の安全の保証、必要に応じて病院に戦略的サポートを提供する必要がある場合に、例外的な健康緊急事態の受付ポイント施設として使用できるようにします。可能な限り安全で健康的な体験を保証するために、少なくとも最初の期間は、スポーツ施設を限られた数の観客にのみ開放し、お互いに安全な距離を置いて座ることができるようにすることが決定づけられます。

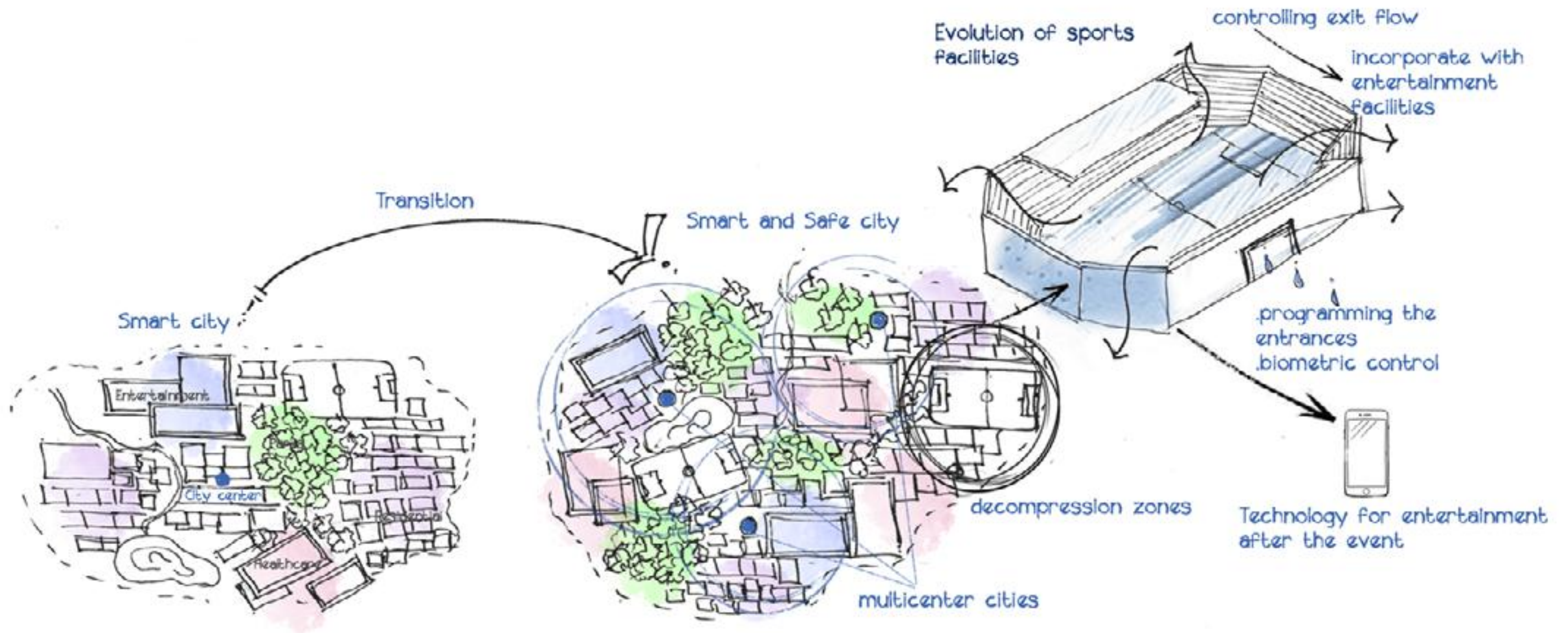
## プロジェクトチームのスキルを拡大する

集合的な空間だけでなく、個人的および私的な空間を体験する方法の進化を視野に入れ、建築家-クライアントおよび建築家-サプライヤーの関係は必然的に再評価されなければなりません。関係者全員のスキルと知識を統合して、すべての人のニーズを実際に考慮できるソリューション(建築、不動産、技術)に到達できるようにする必要があります。まず第一に、私たちがデザインしようとしているスペースが運命づけられます。

これから来る時代は、変化の時代、新しい習慣、新しい夢、そして新しいニーズの時代になるでしょう。マルティン・ルターは、「世界を変えたいのなら、ペンを持って書いてください」と述べました。新しい生き方と都市の成長のプロジェクトは、そこに住む人々のニーズと期待に真に触発された空間を設計することを目的として、この変革プロセスに伴う私たちのペンになる可能性があるのです。









# 10 モビリティ

編集//MIC Mobility in Chain

システムの一時的な世界的な停止は、地球上の人類起源の足跡を浮き彫りにし、とりわけ、これらが環境システムに伴う影響を明確に示しました。

実際、コロナウイルスの影響に関連する封鎖後の行動制限、環境および排出フレームワークへの影響は明らかです。

したがって、この瞬間を利用して、次世代が直面しなければならない真の課題である気候変動に向かい合うことを可能にするかもしれません。

## 持続可能なモビリティに向けた3つの変化

現在、モビリティの体系的な変化を想像するための3つの領域が表示されています。1つ目は、燃焼エンジンから電動モーターへの自動車の移行です。2つ目は、マイクロモビリティ、特にアクティブモビリティの強化に関するものです。3つ目は、デジタル接続に関連する移動を削減する効果に関連しています。

## 電気での移動の奨励

現在の爆発的な人口増加は世界の車両フリートの異常な増加と一致しているため、電気自動車への急進的かつ迅速な移行を計画することは特に急務です。

世界銀行による最近の調査によると、地球上を移動する車両の数が2倍になり、2050年までに20億台に達する可能性があります。また、特にイタリア北部の非同期化され分散した社会では、自動車が主要な輸送手段としての役割を強化していることにも注意する必要があります。

イタリアでは、残念ながら約3,700万台の車両が古くなっており、車両の変換率が大幅に低下し、国の厳しい経済状況を露わにしています。社会学者Matteo Colleoniによる最近の本では、自動車輸送が増加しており、ミレニアム世代による自動車の放棄が物語るのは、ミラノとローマを中心に関係している一方で、国の大部分は自動車への依存度が高まっていることが明らかです。

イタリア北部の居住地の分散により、中短期的には自動車の使用を大幅に削減するソリューションを考えることは、今日では完全に非現実的であり、どんな犠牲を払っても保証されなければなりません。

特に従来の自動車の燃料エンジンが大きく関与している大気中の粒子状物質がコロナウイルスの原動力であることが証明されていると

考える場合、それが電気モビリティに移行する必要がある理由です。

とはいえ、これは決して簡単な移行ではありません。電気自動車は現在、燃料エンジンよりもはるかに高価であり、さらに、電気自動車をサポートするインフラストラクチャーはイタリアでは非常に貧弱です。このため、再生可能資源で良好な道を切り開く可能性のために、電気自動車に有利な燃料エンジンの漸進的な交換をするために伴う、車両フリートの更新を強力に促進する特別な投資計画を考える必要があります。

### 「細いネットワーク」の構築でマイクロモビリティを強化

2番目のポイントは、マイクロモビリティ、特にアクティブ、歩行者、サイクリングのモビリティに関するものです。

かつては徒歩や自転車で移動していた都市ですが、戦後は次第に自動車が占めていました。その時代には、車を支持する都市空間の外向性がありました。歩道が狭くなり、横断歩道が減少し、信号機の緑のフェーズでさえ、車両の流れを支持するように設定されました。1960年代に「アウトストラダ デル ソーレ」（イタリアの主要高速道路名称「太陽の高速道路」）の並外れた冒険が完成したときと同じ勢いで、新世代のインフラストラクチャーが建設されることをイメージする必要があります。

したがって、都市を「細いネットワーク」として再考する必要があります。これは、既存の道路ネットワークと重複し、マイクロモビリティを促進および強化する必要があります。

細いネットワークとは、持続可能な方法を優先する都市規模での漸進的な空間再分配、欲望の線、ソフトモビリティの快適さと安全性を優先する広範囲にわたる毛細管の交差システムを意味します。この新しいインフラストラクチャネットワークのおかげで、一種の「誘発需要」、つまり、適切なインフラストラクチャーがないために現時点では正確に表現されていない、サイクリングや歩行者の移動に対する需要の生成を引き出すことができます。

### デジタル接続を強化して、1人あたりの旅行数を減らす

3番目の課題は、最も複雑ですが、最も魅力的でもあり、デジタル接続の開発を進めることによって、移動の必要性を徐々に減らすことです。

5Gの登場によって保証された新しいインフラストラクチャネットワークに依存する必要があります。

旅行需要とサービス供給の関係は、輸送理論の基本的な要素です。格安航空会社の登場は、実際、非常に有利な経済状況でのオファーに対応するフライトコストの削減のおかげで、新しい需要の出現を生み出しました。

同様に、通常のオンラインゲーム機が提供する接続性のレベルを単純に見ると、信じられないほど時代遅れになっている、現在のビデオ会議システムを超える新世代のデジタル接続を考える必要があります。ゲーム業界では、オンラインでの反復回数が徐々に変化することで、私たちが待ち望んでいる未来を見ることができます。

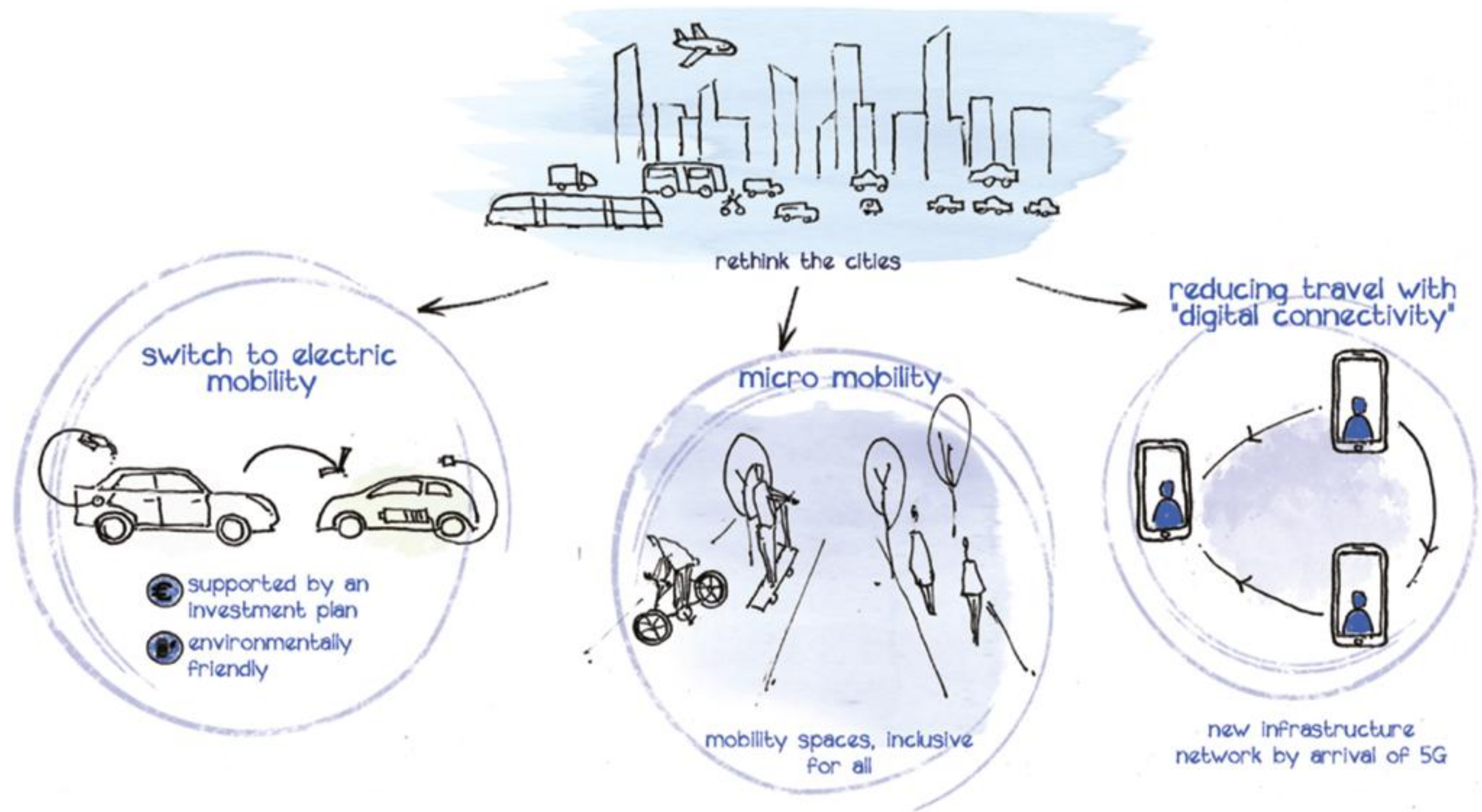
したがって、体験型技術の開発のおかげで、仮想通信、いわゆるデジタルハンドシェイクであっても、明確に表現された効率的な会議を生み出すことが可能になります。

技術開発により、おそらく社会的反復に関連するものではなく、娯楽や出張に関連するものなど、私たちの旅行の一部を減らすことをイメージすることができます。

基本的に、電気移動への移行とアクティブ移動の強化に加えて、1人あたりの走行距離の指数関数的な数を減らし、過去数十年を特徴付ける総移動回数を減らす時が来ました。

結論として、この危機から学ぶ必要のある教訓は、将来に期待される真の課題である気候変動の課題に関連しており、大都市で再開するための最良かつ最も持続可能な方法を考えて対応する必要があります。それは、ソフトな機動性と自家用車の漸進的な電化によって支援された、大量の公共交通機関にかなし得ません。







# 11 サプライチェーン

編集//PwC Italy | Operations

パンデミックにより、サプライチェーンの専門家ではない人や、この分野で働いていない人でさえ、実際にはこの主題に関する知識が増えています。これにより、サプライチェーンが、スーパーマーケットの一部の棚がいっぱいになり、他の棚は空のままになるという事実に関連付けられることを理解できます。そして、Covid-19の前は納期が非常に短かった電子商取引の巨人でさえ、今日は約束された日付の信頼性が低く、追いつくのに苦労しています。

組織レベルでの対応は拡大を続けていますが、企業は現在、迅速に対応しなければならない潜在的に重大なリスクに直面していることを私たちは知っています。

企業がこの世界で追求しようとしている特徴は「復元力」です。これは、バリューチェーンに関して適用できる意味で、複雑な適応システム（CAS-複雑な適応システム）が外部刺激に反応し、状況のあらゆる変化で競争力を持つため、複雑な適応システムでは、取るべき最初の基本的なステップ、それは、システムを構成するさまざまなサブシステムが努力しなければならない一貫性の基本原則を確立することです。

バリューチェーンの文脈では、この原則は、関連する情報や資料がバリューチェーンの流れを尊重し、促進するという原則でなければなりません。これは、情報を取得する速度だけでなく、刺激に対する応答システムの適切さも意味します。これは、顧客からの需要に関する明確な情報が、ある商品の流れの速度を優先できるようにする必要があります。そして、私たちは最後の数キロだけでなく、チェーンの全周内の流速について話しているのです。

## すぐに反応する方法

明らかに、短期的には、人々、顧客、およびサプライチェーンパートナーの尊重に向けて、非常に実用的なアプローチをとる必要があります。最初のフェーズでは、短期的には、非常に反応的なアプローチに従い、「需要と供給」のリバランスサイクルを通常よりも頻繁に行い、突然の変化を認識し、共同市場の状況に応じてどのように対応するかを決定する必要があります。内部リソースとキャッシュフロー、中期的には、つまり復興期においては、より積極的に取り組み始め、長期的には構造的に強固で弾力性のあるシステムを実現することを目指すアプローチが必要です。



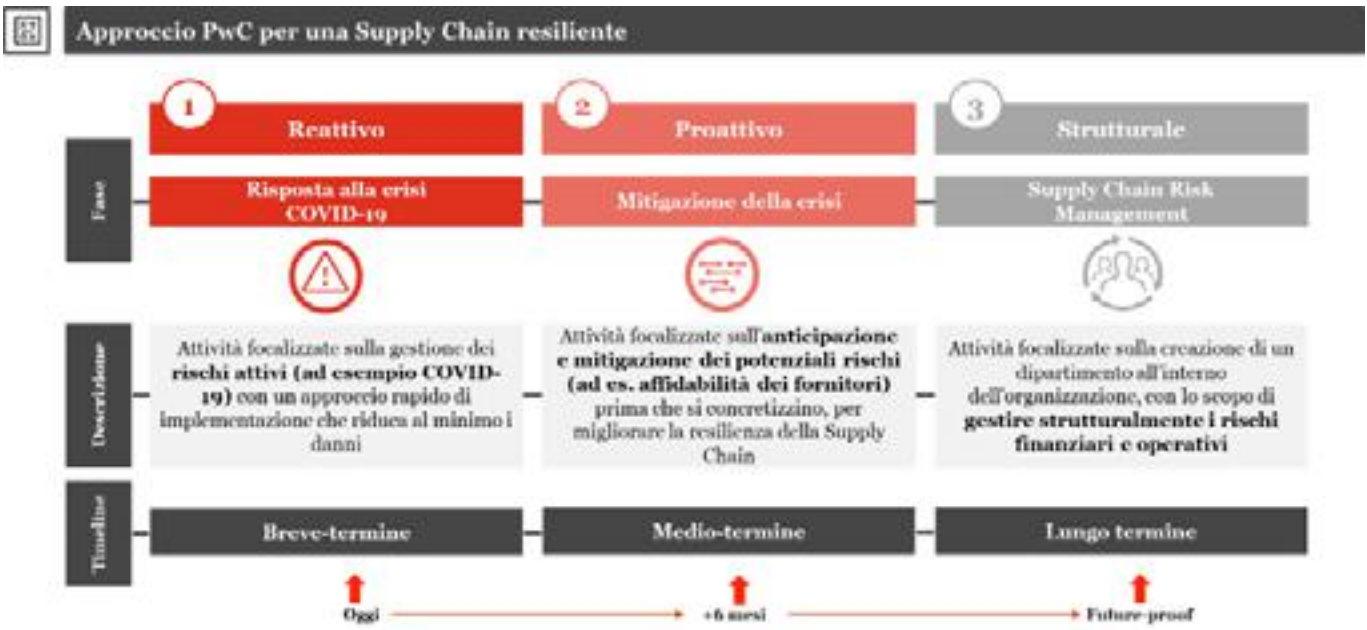


図1: 強靱なサプライチェーンへのアプローチ

短期的な行動は、被害を抑えることによって状況を安定させることを目的としています。一貫性があり、長期的な行動の基礎を築く必要もあります。例えば、生産性を維持しながら距離の維持を保証するために、ワークステーションを再設計および計画する必要があります。他の機能との接触を制限するため、または計画と実行の制御プロセスに関与する人々へのリモートアクセスを確保するために、重要なリソースやプロセスをデジタル化します。管轄当局によって発行されたさまざまな措置に従って、Covidに関連する影響とリスクの評価を実施します。迅速なスクリーニングを行い、サプライチェーンパートナーとの関係管理計画を実施し、eコマースチャネルを強化します。

中長期的にどのように反応するか

複雑な適応システムの管理の基礎となる原則の実行を通じて、バリューチェーンのレジリエンスを作成することを目的としたイニシアチブのすべて、または一部をすでに導入している企業は、ショックをよりよく吸収し、危機から強化される企業になり、彼らは屈服した企業からの市場シェアを吸収することができるでしょう。

実際に進むべき方向は、テクノロジーの使用だけでなく、とりわけ、堅牢性と適応性を提供できる方法論の実行を目的としています。現在の状況は、社会的、経済的、環境的観点から、より持続可能な視点でサプライチェーンを再考する義務を課しています。

最も優先度の高い領域:

- 可視性: 変動を制限し、サプライチェーンのすべてのプレーヤーがリアルタイムで信頼性の高いデータを利用できるようにするために、バリューチェーンパートナー（商品やサービスのサプライヤー、および顧客）とのコラボレーションを強化します。これは、新しい「インダストリー4.0」テクノロジーが最も貢献できる分野です。
- シナリオのモデリング: ティア1、ティア2を含むサプライチェーン全体に特に注意を払いながら、サプライチェーンのフットプリントを評価および再設計する機能です。現在の緊急事態は、2020年1月の初めにすでにオフショアリングの限界を浮き彫りにしました。私たちの会社は中国からの供給が不足していました。将来のライトショアリングの選択は、コストと効率のパラメーターだけでなく、信頼性と柔軟性のパラメーターも考慮して慎重に評価する必要があります。さまざまな企業リスク領域の緊急時対応計画を生成および管理するプロセスも、この領域に分類されます。

- 「供給」運用モデルの堅牢性と反応性: 新しいテクノロジーのおかげで企業の管理境界内にもたらされた情報が迅速に解釈され、効果的に使用されることが基本的に重要です。多くの企業が「リアルタイム」の情報を持つことが内部反応システムで正しい対応を引き起こすと確信しているのは、この点に陥ることが多いことを私たちは観察しています。従来の計画エンジン（MRPで開始）は、突然の変更によって引き起こされる優先順位の継続的な更新を許容しないことを私たちは知っています。この問題を克服するために、多くの企業は、実際の需要のみに対するタイムリーな反応に基づいた新しい生産計画および管理方法の使用に焦点を合わせてきました。（デマンドドリブンMRP）複雑適応系の管理理論に基づくこのアプローチにより、バリューチェーンに沿って戦略的に配置されたポイントを分離することで変動を減らすことができ、在庫レベルの削減、反応性と顧客サービスのレベルの向上、および注文管理コストの削減にメリットをもたらす、安定した事後対応型の計画を維持することができます。



# 12 ソーシャルイノベーション

編集//PwC Italy | New Ventures | Innovation

不動産セクターのスペースの設計と計画は、「汚染、コミュニケーション、都市に生きるさまざまに構築された魂との対話を可能にするために、それらを取り巻く状況でプロジェクトを配置することができる、異なる併用場所の繁栄を支持する」(R.セネット)。

この都市は、ピエール・ブルデューによって定義された「フィールド」の概念を完全に表しています。それは、共有された美的および道徳的次元に従って、そして「フィールド」を構成する異なる要素間の弁証法的対比に従って協力の形態を決定することができる社会の新しいパラダイムの定義に取り組むための物理的空間です。

そして、この都市は常に、個人が自分自身を表す新しいタイプの言語が生まれる場所です。「私たちの言語は古い都市のようなものです。狭い通り、大きな通り、新旧の家、建物の迷路とさまざまな時代、その周辺の新しい郊外のベルト、まっすぐで規則的な通りなど、建物はすべて同じです...言語を表すことは、生活の形を表すことを意味します」(ルートヴィヒ・ウィトゲンシュタイン)。

これらの2つの概念の結合は、言語に基づいて都市の概念を定義します。これは新しい概念パラダイムとして形を成し、拐引プロセスを実用主義の実験主義の原則にする語彙を呼び起こします。そこでは、個人的な関係が個人によって認識され受け入れられる反事実的な比喩を定義します。

この文脈において、不動産分野および都市設計に関与するすべてのプレーヤーにとって、効果的に社会イノベーションの場所となっている近隣および都市の構成方法を再考することが不可欠になります。結果として生じる必要性は、社会イノベーション、再生、都市再開発プロジェクトを通じて、単なる空間ではなくアイデンティティを生み出し、コミュニティに前向きな外部性を備えた現実の場所になることができるコンセプトを設計することです。

## 開発ドライバーとしてのソーシャルイノベーション

不動産分野におけるソーシャルイノベーションの概念の適用は、個人の生活の質を向上させることを最終的な目的として、あるコミュニティにプラスの社会的影響を与えることを目的としています。このため、これまで不動産分野をリードしてきた古典的な経済的推進力に取って代わり、ソーシャルイノベーションが不動産開発の主要なエンジンになる必要があります。

この革新的なビジネスモデルは社会起業家精神として定義されており、必ずしも収入の創出をあきらめることなく、社会的利益と使命の影響を強調することによって変化をリードする必要性に関連しています。

この意味で、都市や不動産の介入に関与する都市の作成者や関係者がこのアプローチに従い、彼らの仕事を通じて社会的ニーズに対応



するという目標を設定することが重要です。彼らは真の「選ばれた建築家」として機能し、市民が穏やかなプッシュやナッジを通じて生活の質を向上させるための有用な決定を下すのを助け、示唆する環境を設計する必要があります。

ソーシャルイノベーションの実践は、社会と個人の新たなニーズの深い理解を提供し、持続可能性の複数の側面に基づいています：経済的、社会的、文化的、環境的、これらすべての要素は、コミュニティのニーズに的を絞った方法で対応できるように、不動産の選択と関連すると予想される経済効果に情報を提供し、それらに影響を与える必要があります。

### 都市の設計に適用されるオープンイノベーションのパラダイム

この文脈から浮かび上がる課題は、オープンイノベーションの方法論を通じて、プロジェクトが挿入される場所に典型的なイニシアチブの「独自性」を生み出すことで、これは、共有された前向きなコミュニティ精神を生み出すことを目的としたコラボレーションと共同設計の概念に基づいています。

この課題に対応するためには、まず、個人の真のニーズや要件を調査する必要があります。したがって、あるコミュニティに質問し、共同プラットフォームを使用して関連するフィードバックを収集し、社会的、経済的、民族史的研究方法論を活性化する必要があります。この調査プロセスを通じてのみ、どこでどのように行動するかを十分に認識でき、優先順位と取るべき重要な行動を特定することができます。

オープンイノベーションのパラダイムを通じて、さまざまな関係者の関与とコラボレーションによるソリューションの開発を予測することができます。したがって、関係するアクターのスキル、資産、およびニーズを交換、強化することを目的とした潜在的なコラボレーション、それらの戦略的パートナーシップの機会を特定することを目的として、エコシステムを作成する必要があります。このタイプのエコシステムにより、不動産会社は革新的な能力を強化し、新しいさまざまなリソースにアクセスし、知識と活動を共有するためにさまざまな関係者間の関係とコラボレーションの作成を促進できます。

さらに、不動産開発には、受益者としてだけでなく、とりわけ革新的なソリューションの設計に参加するアクターとして理解されているコミュニティの役割の強化が含まれている必要があります。この開発および共同設計モデルの大きな利点は、社会的ニーズへの対応を多様化および充実させる可能性に具現化され、純粋な不動産または合理的な規制の性質の従来の投機的選択から独立した、予期しない革新的なソリューションを作成する機会を提供し、むしろ法律自

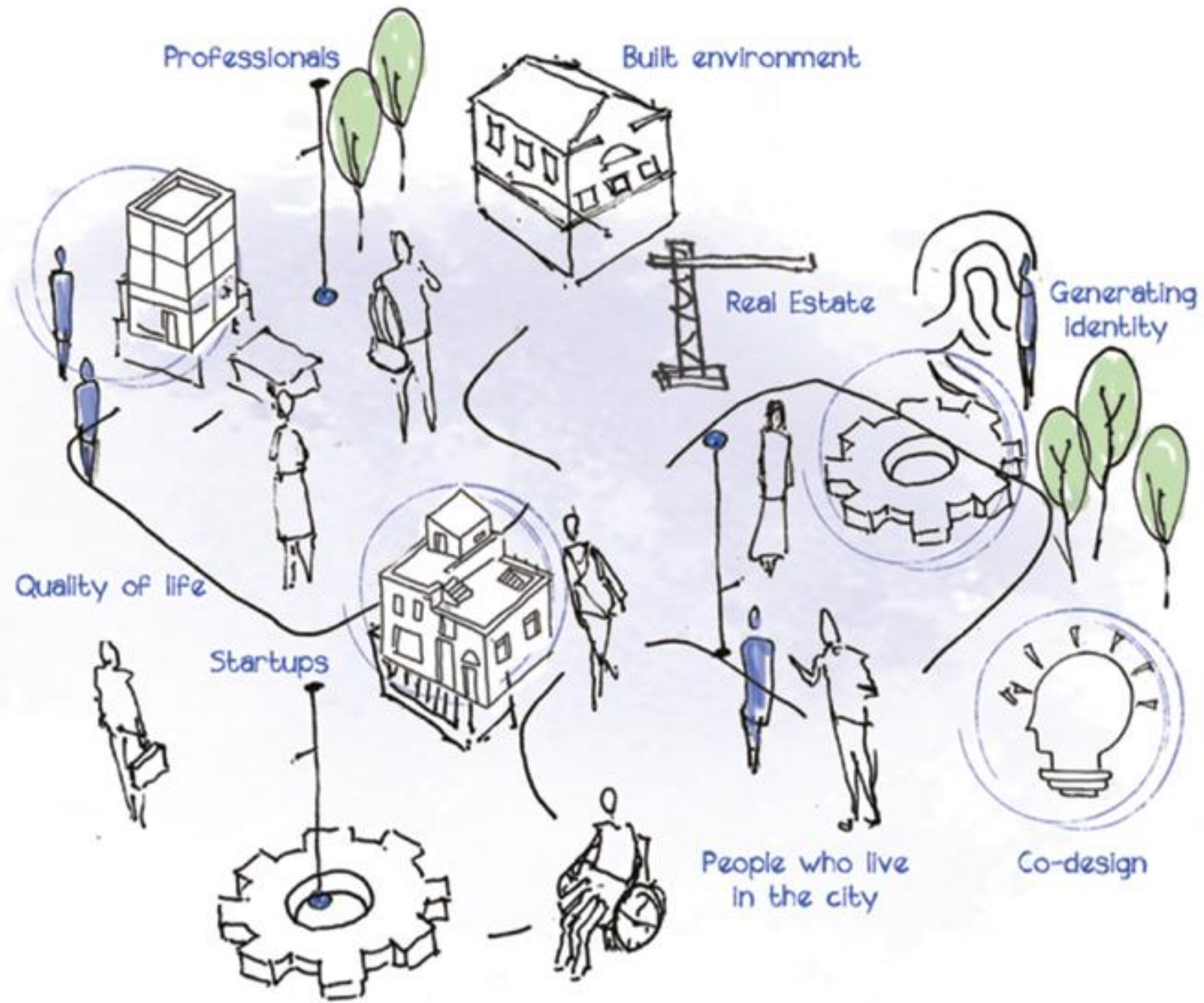
体を予測し、克服することができます。さまざまな新しい関係者の関与の結果、共通善としての新しい知識が生み出され、これは不動産開発の従来のモデルに挑戦します。

### 新しいソーシャルイノベーションフレームワーク

この協調的なアプローチにより、都市と空間の設計者は、個人の日常生活に反映されないソリューションを設計するリスクから解放され、そして、それはしばしば単なる概念的な実験として終わります。このため、セネットが再訪したフランスのヘンディアドをたどった、2つの極を説明することが重要で、特に都市を構成する2つの極、ヴィル・エ・ラ・シテを説明することが重要です。ビルは建設された都市、物理的な部分を表し、シテは人が住む都市、社会的関係の構造を表しています。彼の言葉を引用すると、「一方では造られた土地があり、他方では人々が生きて、住む方法がある」（建築と住居。都市の倫理、R.セネット）と言えます。そこに住む社会構造を考えずに、都市や近隣の物理的側面を理解することは不可能です。このため、都市はシテで開発する必要があり、その逆はできません。この意味で、個人が個人的および社会的関係の基礎となる共通言語を作成できる空間を定義することを目標とするアプローチに従って、ソーシャルデザインの再記述について話すことは適切です。

この文脈において、都市再生と社会イノベーションプロジェクトは、さまざまな社会的アクターのニーズと困難を傍受し、革新的で技術的なソリューションを共同設計し、市民がより良い生活の質を保ち、都市と近隣地域に積極的に戻るようにします。この共同設計の方法論を進めるためには、コラボレーションアプローチを奨励し、都市再生の影響によって生み出される前向きな要素を可能にし、同時にその恩恵を受ける個々の人々に焦点を当てることが重要です。

このアプローチの結果は、社会イノベーションの新しいフレームワークの定義です。このフレームワークでは、空間、環境、コミュニティが相互に接続された生態学的現実 に具体化され、正の価値の観点から相互に供給し、社会関係が共通の言語を作成します。そして技術動向、倫理的かつ持続可能な原則は、新しい不動産開発モデルの柱になります。



A city designed through the collaboration of everyone leveraging on Open Innovation approaches



# 13 教育

編集//コラボレーションInternational Experiential School, Fondazione “Educatori del terzo millennio” e Generation Warriors

学校に通い、知識を得る場所に行って理解を深め、個人や市民として成長することは、強要と義務としてのみ経験されることが多すぎます。

勇気あるプロジェクトの時が来ました。次の世代や子供や若者のモデルでは機能しなくなった70年前のモデルを繰り返す、古風で石膏のシステムに十分に言及する事です。それはもはや現在と調和せず、技術的、社会的、環境的、エネルギー的観点からだけでなく、精神的観点からもそれを反映していません。

これは意識向上活動です：子供、人間を彼らの必要性和弱さ、そして彼らのすべての並外れた可能性を中心に置きます。

## 新しいコンテンツに開かれた学校

より伝統的な主題に加えて、その内容は改訂され、必要に応じて削減され、イタリア語と外国語、数学、物理学、歴史、公民、地理、哲学、文学などの革新的な方法で実行され、新しい分野が挿入されます。例：すべての時代の偉大な思想家と過去と現在の夢想家の研究、製作、絵画、楽器の演奏、歌、書面、自身の研究、自身の才能と夢の発見における創造性、健康の教訓、普遍的な原則と法律の深化。計画や具体的な目標達成などの起業家スキルも含まれています。美の研究は、私たちの国が提供する大きな可能性、公的生活への意識と参加のレベルを上げるために重要な市民/環境教育モジュールの活性化を利用して構想されています。

## 新しい教育関連の人物を含めることを受け入れる学校

学校は、対立や競争ではなく、比較と協力を通じて成長するために、他者の時代と表現方法を尊重すると言うすべての人の要求を発展させる場所です。それらには以下が含まれます：教師、特別に訓練されたマネージャー、そして新しい教師になる地元の起業家、すべての心理的適性の発達をフォローするコーチとカウンセラー、テクノロジー、医学、生物学のさまざまな分野の研究者だけでなく、コンピューター科学者、若者のビジョンを新しい仕事の機会に開く監督、演出家、衣装デザイナー、それらすべての技術者、とりわけ、自分自身を維持しながら役割毎に出し入れする芸術を理解させる俳優、劇場チームの指標、そして更なる高い倫理的および宗教的レベルの人物、哲学者、芸術の専門家、そして明白な分離を超えて、1つの現実、1つの真実の概念に心と心を開く啓発された神学者などです。

## さまざまな教育方法とスペースの重要性に開かれた学校

新しい学校のロジスティクスを再考する必要があります。物理的なものに加えて、関係性にとって等しく重要であり、バランスの取れた方法で混合する必要がある仮想空間とデジタル空間があります。

### 弾力性のある学校

新しい学校は絶対的に柔軟で急速な変化に対応できる必要がありますが、必要に応じて、落ち着きとビジョンの調整につながる減速の価値を獲得する必要もあります。以下：

- 学習を実行できる新しい次元が必要です。
- 各タイプのアクティビティに起因する物理空間とデジタル空間を混合して使用し、より柔軟な、1日の間に広がる、1日を通して分散される最小時間単位を仮定することができます。
- 新しい分野を越えた道筋の特定を通じて、外部および共有スペースでの集合的活動から教室の使用のローテーションまで、柔軟で異なる用途のビジョンを持って学校の各領域を強化する必要があります。
- 社会全体がより高い意識と責任の状態に進化できるように、親と家族の成長の瞬間と空間を特定する必要があります。

### クリエイティブスクール

新しい学校には、創造的な思考、ビジョン、夢を通して独自の現実を創造する人類の概念が含まれています。したがって、それらは必要な事なのです：

- ニーズ、欲求、価値観、才能を引き出すための学生の自己分析能力を奨励します。
- 落ち込むごとにそれは常にチャンスであり、自信を構築するために必要であることを理解するための「ガイド付き」失敗の経験を推奨します。
- 学生に生まれる才能に関連して、多様な分野（コンピューターサイエンス、歌、音楽、絵画など）での詳細な学習、研究、実践を可能にする個別のグループの形成を促進します。

- 学生がチームワークのトレーニングを行い、スタートアップの設定と管理に熟練し、学校外の世界のさまざまな専門家や企業との関係を学ぶことができるように、創造的および設計ワークショップを開催します。

- 外部企業に開放された展示会のためのスペースを設置します。

- 開かれた新しいトレーニング体験は、その地域の仕事の世界との相互作用を生み出します。

- 戦略の研究に特に注意を払いながら、遊び心のない領域でも、ゲームの次元、ゲーミフィケーションを予測します。

- 符号化のトレーニングを奨励します。これは、プログラミングが可能で、マインド形成の開発に不可欠です。

- 世代間の会議を調査および促進して、さまざまな年齢の人々の間に存在する典型的な偏見を排除し、スキルと経験の相互交換を生み出します。

### 学校との連帯

学校を通じて、思いやりのレッスンから自発的な行動の奨励まで、日常生活の中で利他主義の具体的な行動を活性化することが計画され、地域のニーズと困難を学校に持ち込みます。また、学校内にサポートグループを作成することにより、最も有能な生徒がより困難な生徒を支援することを奨励します。セクションの壁を完全に打ち破り、さまざまな主題や分野の興味に関する研究グループを支持して、単一のクラスだけでなく、すべての学生間の相互作用を刺激することが有用であると考えられています。一般的には、外部に対しての「メンテナンス」や清掃にも協力して、学生の共通点に対する責任のレベルを高め、他者の仕事を尊重する必要があります。



13.1

# 学習と研究

編集Six Ideas Learning Lombardini22とのコラボレーション

教育の仕事を自分自身に与えた人々に課せられた挑戦は新しくて予想外ですが、この危機を克服するための答えは教育と研究の場所の本質に彼らのルーツを見つけます。

実際、コミュニティの側面を学ぶ上で排除することはできません。集合的な生活は知識の起源です。なぜなら、その中で思考は出会いと対話を通じて、その具体性をそれ自体で表現できるからです。

教育は簡単に手に入ることができるサービスではありませんが、現時点でもさまざまな方法や技術を利用して、さまざまな主人公と協力しているコミュニティであり、抵抗しながら何とか仕事をこなす学校は、コミュニティの一員である学生との強い協同があるところ です。

Covid-19後のイメージでは、物理的な場所がない場合、または場所が昨日の経験と比較してその可能性が低下している場合でも、積極的に参加し関係を保護することが不可欠です。

課題は、新しい仮想コミュニティを通じてこの教育環境を認識し、深めることです。

この期間は、すでに進行中の変化の強力な促進剤であることが判明し、すぐに対処できるいくつかの側面に焦点を当てることにつながります。

## 関係空間としての学校

このフィジカルの障害の状況は、社会や都市のさまざまな対話者とのバーチャル会議や資料の共有の機会として、学校、大学、研究の世界も関わり、都市全体に対する貢献と責任の表現として共有するという側面で体験することができます。

企業や企業との相互交流に開かれた将来の教育の見通し、それは、仮想の関係と知識の交換から始まり、社会のさまざまな主人公と共有されるトレーニングスペースの場として利用することで学習経験をイメージすることができます。

この時代のデジタル空間と物理空間の強制利用は、それを生きる人々と学ぶ人々の意識を生み出す場所を構築するという主なニーズに応えるために統合することができます。

したがって、デジタル空間と物理空間の多様化は、どちらの場合も「関係空間」であるという条件で、各個人がよりよく表現し、より効果的に学ぶことができる空間を革新的な方法で、アクティビティの種類ごとに見つけることができる有効な手段になります。

私たちが自分自身を見つける状況は、学習を実行できる新しい次元を必要としています。

アイデアとしては、物理的空間とデジタル空間を混合して使用し、

個々の研究からトレーニングコースまでの各タイプの活動に起因する、1日を通して分散される最小時間単位のアイデアです。

また、外部および共有スペースでの集団活動から、学校構造での教室の使用のローテーション、企業のトレーニングセンターまで、柔軟でさまざまな用途のビジョンを持って、複数の用途がある都市のさまざまな領域を強化する必要があります。

大学と企業間の潜在的な関係への投資につながる可能性のある特定の問題について「調査を行う」という新たな必要性を分析することにも興味深いです。特にこの時期には、さまざまな分野が効果的で共通の解決策を見つけるために対話を余儀なくされます。

研究の分野でも、この状況の後、私たちの日常生活の一部となるであろう教育ツールの使用に反対しないことを目的とした使命が基本です。

コミュニケーションの方法は重要な役割を果たし、研究がよりアクセスしやすい世界になり、その出版物が効果的な作業ツールになるように、変更と開放が必要です。

私たちは、永続的な関係を構築することを目的とし、これらの現実間の継続的な交換のビジョンを強制し、学習の次元と仕事の次元の間の継続的なサイクルと対話の形成をイメージします。この交代経験の増加から、研究関係や大学とビジネスの洞察の発展に至るまでの学生のための学校の仕事など、これは、特定の問題に関する実際のコラボレーションにつながる可能性があります。

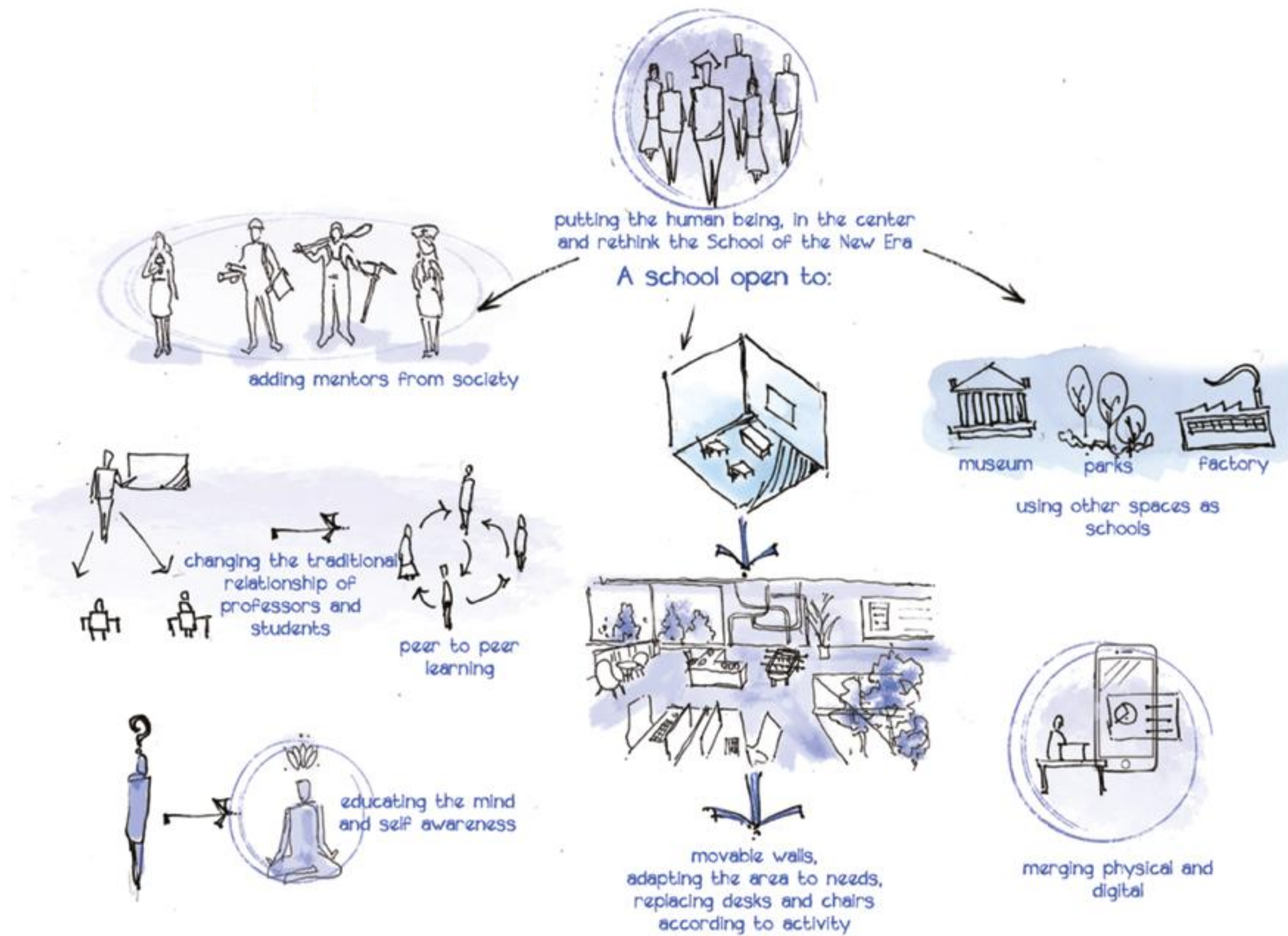
物理的空間とデジタル空間に住まなければならない世界との対決に備えるために教育を行うのであれば、コミュニティ全体がこの新しい複合現実で実践することが適切です。

この中で、デジタル世界への開放は、テリトリーとの新しい交換関係によって豊かにすることができます。柔軟性を特徴とし、今日これまで以上に独創的なアイデアを思いつくことを容易にする創造的な精神の形成が基本です。

このビジョンには、協働し、この教育的および空間的革新を表し、学習と研究の世界に伝統的に与えられている境界を超えた空間のアイデアが含まれています。









# 14 ウェルネス

編集//Technogym

ウイルスの拡散を阻止するために必要な前例のない封鎖は、人々の健康に重大な負の副作用をもたらしました。人々が何週間も拘束され、強制的な身体的不活動は、体重増加を引き起こし、精神状態を悪化させました。中長期的には、糖尿病、高血圧、うつ病など、座りがちな生活に関連する病的状態の増加も予想されます。パンデミック後、健康の価値は間違いなく人々の優先順位で上昇し、確かに今日、健康と医療サービスに対する強い需要があります。人々は安全にそして専門家の指導を受けて移動を再開したいと思っています。

世界各国で第2フェーズを段階的に開始している制限措置の緩和により、適切な予防および安全プロトコルに準拠して、ジムや組織化された構造物での運動を再開することが可能になります。当局によって示された規制は、センターのさまざまなエリアの社会的距離、アクセス、および能力を規制します。

フィットネスクラブだけでなく、ホテルやスパ内のスポーツやウェルネスエリア、エリアのレイアウト、デジタルテクノロジー、スタッフと顧客は、これらの行動規則に従わなければなりません。

レイアウト: トレーニング機器の存在はすでに正確な場所を定義し、人々の間の社会的距離を確保するのに役立ちます。構造のレイアウトに非常に近いところに機器が含まれている場合は、それらの間隔を空けるか、交互に使用できるようにすることを推奨します。コースやグループ活動専用のエリアは、アクセスと予約を規制し、ユーザーが大画面でプログラムを実行できるようにガイドするデジタルテクノロジーによって管理できるため、インストラクターとの物理的なやり取りが減ります。

デジタル技術により、センター全体のアクセス、予約、容量を管理できます。適切なアプリのおかげで、ユーザーはジムの座席や自宅からのレッスン、またはセンターに向かう途中で予約できるようになり、受付とアクセスの操作を簡素化し、行列待ちを避け、安心感を与えることができます。顧客に対して、この緊急事態は間違いなくフィットネスの分野を含むすべての分野で、デジタル革命を大幅に加速させました。僅か5週間で、イノベーションの面で5年の飛躍を遂げたと言えます。

一般的に、封鎖により人々はお気に入りの製品やサービスをさまざまな方法、さまざまな場所で使用するようになりました。eコマースの爆発的増加から、製品だけでなく実際の活動体験に関係する配信サービス、イベントやリモートコミュニケーションまでです。

これらの新しい使用モデルでは、ホームフィットネスとジムはもはや競合他社ではなく、統合しています。家庭でも屋外でも、デジタルテクノロジーと接続されたフィットネス製品のおかげで、サービスやトレーニング体験を提供および販売でき、フィットネスおよびウェルネスオペレーターの新しい市場にもなり得ます。





large screens to reduce physical interaction with the instructor



the placement of training equipment defines precise location for each person to ensure social distancing



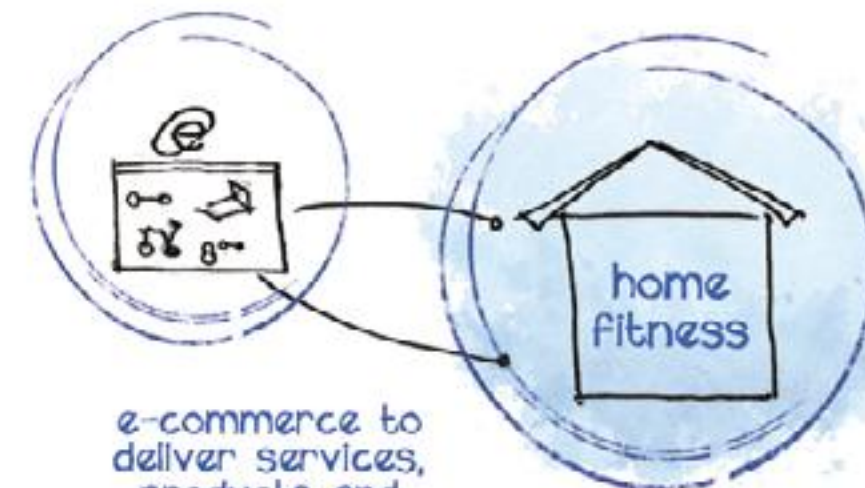
offering training services to customers at home

Digital technologies



- manage the accesses, reservations and capacity of the center

- avoiding queues and giving the sense of security



e-commerce to deliver services, products and experiences



# 15 行動設計

編集//IIPrisma

Carlo Galimberti教授とデザイナーの  
Luciana Gomezとのコラボレーション

デザインの世界にアプローチするための視点の1つは、人間とその関係を中心に置くことです。つまり、主人公、訪問者、住民、従業員、建築とデザインオブジェクトのユーザーを理解する事です。主題としては、それらの対話者、そして彼らが出会う世界の間の絡み合いを導くニーズ、野心、そしてインスピレーションすることです。だからこそ、建築の視点と社会心理学の視点を絡み合わせることが非常に興味深くなるのです。

Covid-19に続いて何が変わるかについての考察を提案するために、いくつかの可能なシナリオ、それら心理社会人類学的特徴、およびスペースの使用における考えられる影響を特定しようとする作業プロセスを構築することは興味深いです。相互に排他的なシナリオではないが、それは一般的な想像力の中で共存し、多かれ少なかれ共有された表現で、政府の仕事に対する評価を生み出す可能性もあり、近い将来の私たちの行動を導く可能性があります。

## 考えられるアクションシナリオのマトリックス

したがって、例として、3つのシナリオについて話すことが有益であると考えます。まず最初に、生きた経験を忘れてたり否定したりして、以前とまったく同じように戻ることを私たちが想像すること、2番目は最初と反対で、以前と同じものは何もありません。このシナリオは、再考や精緻化の対象とならない隠れた部分を引き出すトラウマ的な状況を浮き彫りにします。不可能は理想化され（ユートピア）、可能性は除外されます。最後のシナリオはトラウマ処理のシナリオです。私たちは継続し、人生は続き、経験から学び、起こったことを処理するように私たちに求めます。このシナリオは、感情的、関係的、語用論的機能の要素で考慮された、社会的距離の精緻化に正確に作用します。

## 回復力と組織能力

それら効果的であるために、パンデミックによって人類にもたらされるような非常に脅威的な課題への対応には、回復力、対応能力、体系的な認識、そして何よりも、「可変的な幾何学」でなければならない組織能力が必要です。それらは変化する外部条件に応じて継続的に再構築することを可能にします。建築分野にどのような影響があるかをイメージする必要が生じますが、3番目のシナリオでは、距離を継続的に規制することで、社会的距離を詳しく説明し、そして柔軟性が重要な役割を果たします。規制を支援するために柔軟な用途に対応できるスペースは、今後のフェーズに適したスペースになり得ます。建築家の仕事は、将来のユーザーが彼らと一緒に考え、設計する必要性を理解するように自分自身を訓練することです。

したがって、上記の変数（距離、柔軟性、異なる文化、関係、プロセスなど）によって決定される可能な解決策の明確な範囲を持つことを考慮したアイデアは、新しいプロジェクト方法論を設定し、それに伴って行

うことです。さまざまなフェーズに関与するグループや人々のニーズを理解することは、さらに基本的なことです。建築家はおそらく、スペースに加えて、トラウマに取り組み、それを克服するのを助けるために構造化された、スペースで発展する可能性のある人生経験全体を考慮する必要があります。

## 将来の仮説

トラウマのやり直しのシナリオでは、私たちは自分自身に問いかけます: 私たちが経験していることは何であり、起こり得る結果は何であるか? 私たちに最も近いのは、おそらく私たちがそれを達成するために、より持続可能なものになるでしょう。テクノロジーは、一部の活動を置き換えることはできないが、同時に他の活動は完全に置き換えることができ、異なる役割を果たすことが理解できます。

持続可能なモビリティシステム（自転車や自転車道）の採用だけでも、環境にもっと注意を払うようになるでしょう。トラウマの処理は、おそらく最終的に私たちを本当に横断的な時間のスマートな日を受け入れるように導き、それは私たちに他の目的や他の意味を持つ職場をイメージさせるでしょう。たとえば、職場は以前とは異なる活動が行われます。パンデミックにより、リモートでの作業が可能であることがわかり、企業がその構造を維持することがわかった場合、集合や自営業などの一部の活動を実行することは意味がなくなり、オフィスでは、それは別の何かに変わります。

この方法を実際の事例に適用し、官公庁のシナリオを分析してみると、特に重要な分野は、数と実際の人々の関連性の両方の観点からだけでなく、サービス、特に公共交通機関の使用に関連するものです。

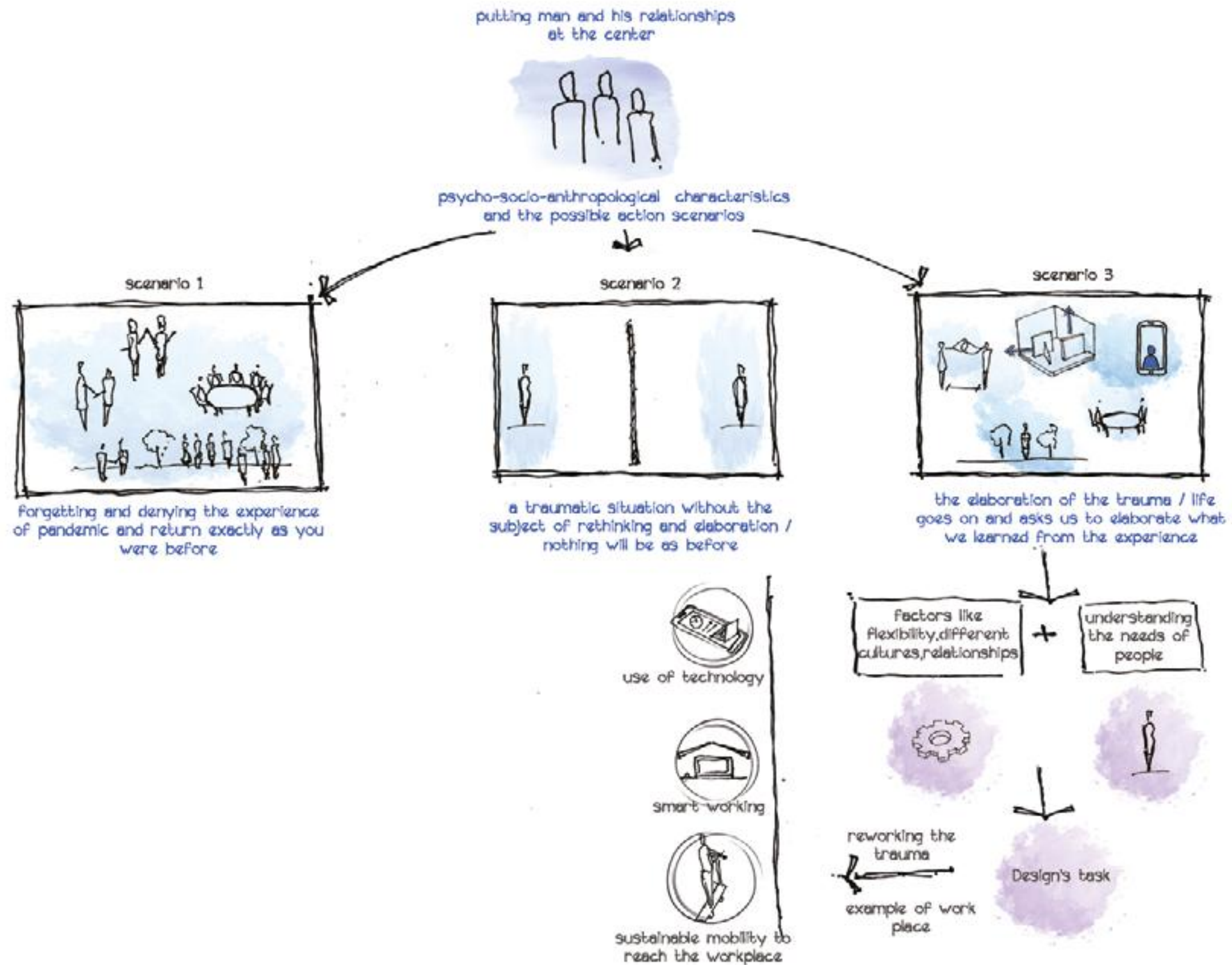
行政や運輸などの公共サービスの管理を委託されている企業の目標は、明らかに、第3のシナリオに沿って、責任ある行動を促進するために可能なすべてのリソースを展開しなければなりません。それらへの介入は、特に3つの側面に焦点を当てる必要があります。

1. サービスを使用して市民との直接に、物理的および仮想的な接触を委託されるすべての公的、私的従業員は、説明用語（プロセスと方法の正しいコミュニケーション）と管理の両面で効果的な相互作用スキルを習得するために適切に訓練されなければならない重要な問題があります（シナリオ1および2に関連する行動の管理）。

2. 経路探索デザインの強化: 市民は、可能な限り幅広い特異性（言語、年齢、教育、および障害）を考慮に入れたシンプルで効果的なビジュアルコミュニケーションを通じて、望ましい行動に正しく向けられる必要があります。この標示は、実際の視覚的な付随経路を作成するような方法で、スペース内に統合する必要があります。

3. オンライン/ソーシャルコミュニケーション: 公式のソーシャルサイトおよびチャンネルは、さらに基本的なサポート活動を履行します。公開された情報を効果的に管理することに加えて、人々が十分にサポートされていると感じられるように適切な応答時間を確保することが非常に重要になります。





# 16 バーチャルツイン

編集// Dassault Systèmes

社会イノベーションの中心であり、不動産に特権的な場所であり、公共および民間の空間の再生と再開発に注意を払っているこの都市は、人間、環境、経済の持続可能性を調和させなければならない複雑な生態系です。そのため、民主的で包括的なオープンイノベーションの論理において、計画、開発、および施設管理を具体的に可能にするツールを信頼する必要があります。

それは、プロジェクトの目的を見失うことなく、集団的知性を傍受して建設的にさまざまなビジョンの対話を行い、無数の定性的、技術的、規制上の要件と制約を調和させるという問題を、常にすべての関係者の努力を主な目的に戻すことによって、それは、正常、緊急、および新しい規範の状況で機能するスマートな環境を作成し、官僚、コンプライアンス、および承認プロセスを合理化することを可能にするツールを提供することです。

これを念頭に置いて、デジタルプラットフォームはコラボレーションを可能にし、また拡張しながら、スマートシティの管理に最適な環境を構成し、システムの相互依存性をサポートできるようにします。そして、エコシステム全体の動的な貢献を建設的に調和させ、異なる役割とスキルを持つ複数の公的および私的要因を、一緒に革新することが求められています。

スマートシティは、指数関数的な人口増加の傾向への対応ツールとして作成され、生活の質の向上を目的とした最新の政策に利用可能なテクノロジーを結び付けています。

今日では、その領域で収集されたデータを構造化システムの要素、または統合されたITプラットフォームと見なすことができ、全体的な戦略に変換される、より広範なアプローチを定義する必要があります。

## バーチャルツイン、3D、ユニバーサル言語、集団的知性ツール

持続可能な都市の文脈は、多くのより良く調整された変数の結果です。収集、整理、統合され、情報に変換されたデータは常に更新され、共有プロジェクトに役立つこれらは、コミュニティ関連の実際のニーズに対応し、都市体験を向上させることを目的とした、内部および外部のスペース、建物、サービスの開発と保守の科学的基盤です。

動的な3Dモデルと仮想宇宙に基づくデジタルプラットフォームを使用すると、既存の都市体験である仮想ツインを生成して、可能なものの機能をシミュレートでき、まったく新しいシナリオを実験して、中長期的に最も望ましいスマートコンテキストを検証し、まるで現実の世界で自分の目で見ていくかようになります。

Virtual Twinsを使用すると、建物から緑地、通信からエネルギー、インフラストラクチャー、輸送からセキュリティサービスまで、都市環境のすべての要素を作成、分析、操作し、行動や相互作用を超現実的な方法でシミュ



レートし、関係するすべての者にとって明確な方法で共有することができるのは、3Dモデルの普遍的で雄弁な言語のおかげです。

## コラボレーションプラットフォーム

持続可能で、回復力があり、安全な未来を構築するために、私的および公的側面において、まず第一に、すべての関係者が参考にするプロジェクトを一義的な情報源を表すデジタルアーカイブとして拡張性がある、コラボレーションプラットフォーム上に確立することです。それにより、経済的、環境的、安全性の変数の発生率をシミュレートすることが可能になり、プロジェクトシナリオを比較して最適化します。フィードバックループを実際から仮想へ、またはその逆に活用し、コンテキストの知識を増やし、プロセスモデルの時間の経過とともに検証します。そのロジックは、街全体からその周辺地域へ、そして単一の建物プロジェクトまで影響を与えるミクロからマクロまでの開発と管理に適用できます。プロジェクトプロセスの参加者間のコラボレーションと実世界のデータとの相互作用が仮想世界に流れ込み、計画および実行チームがリスクを理解し、都市計画を絶えず改善するためのインタラクティブなモデルを作成できるようにします。

建設プロセスのデジタル継続性により、建設の開発プロセスに沿ってプロジェクトの目的とその実行方法を明確に伝えることができるため、すべての協力者がそれを理解し、その達成に効果的に貢献できます。

## その分野の最善の策に従った、建物のライフサイクルの構築と管理に対する科学的アプローチ

設計と建設のエコシステム全体が同じモデルを共有する場合、チームは設計変更がプロセス全体に与える影響を認識し、すべてが自動的に同じ更新データを参照できるように、さまざまな貢献による誤解や実質的な不便を回避できます。

建設プロジェクトへのこの科学的アプローチは、航空宇宙や自動車など、PLM（製品ライフサイクル管理）方法論を数十年にわたって採用してきた他の非常に革新的な産業部門からの積極的な技術享受によって可能になりました。BIMは、PLMと高度なテクノロジーによってもたらされたコラボレーションアプローチを継承して、建設開発の革新を可能にする要素を生み出しました。今日の最先端技術はレベル3BIMであり、建設データをすべての参加者間で完全に共有でき、さまざまなスキル間の障壁が完全に解消されています。建設のバーチャルツインの開発に基づくコラボレーションプラットフォームは、BIMの原則、拡張コラボレーションのソリューション、および建設のライフサイクルの管理のソリューションを組み込んでおり、時間、材料、および財務の無駄を大幅に削減します。プロジェクトの経済的および環境的持続可能性を高め、建設プロセスでより大きな価値を生み出すためのリソースとなります。

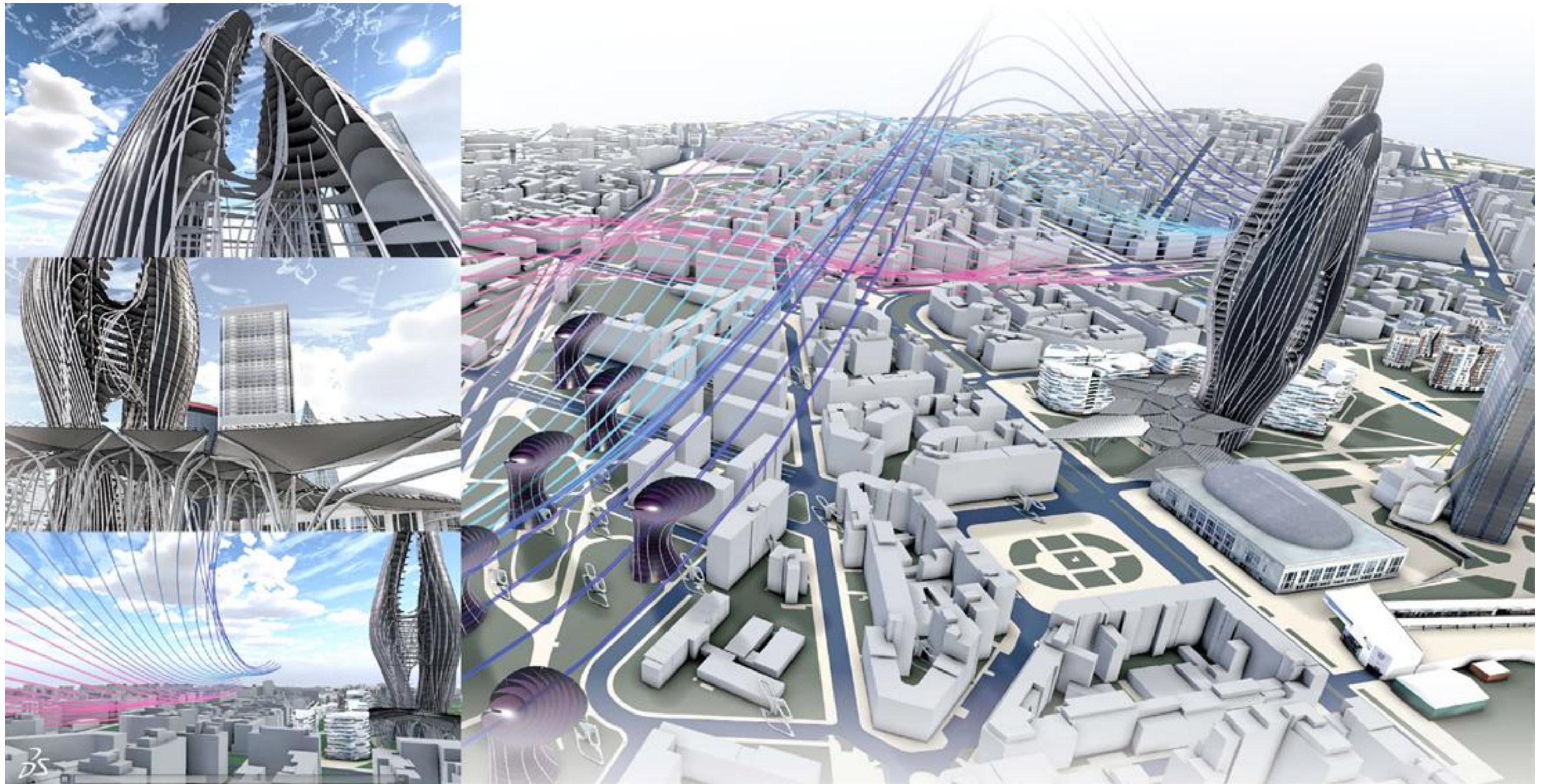
## 設計、建築、収益性を向上させる技術

BIMデータとPLMの機能およびプロセスを組み合わせることで、建物ライフサイクル管理（BLM）が作成されます。これは、建設中に発生する可能性のあるエラーを予測し、建物プロジェクトの建設に参加するオペレーターのエコシステム全体で所有者の長期的な価値と収益性を高めるのに役立ちます。このテクノロジーは、統合されたガバナンスとフォローも可能で、すべてのチームとすべての分野にわたる共同責任を強化します。一元管理されたデータは、監査の問題を取り除き、エラーのリスクを減らし、ファイルを管理する必要をなくすために重要です。すべてのユーザーは、クラウド上で利用可能なリアルタイムで更新された単一のデータベースにアクセスできます。この文脈では、設計者はより多くのデータを持ち、常に更新され、完成した建物の品質と将来のメンテナンス、そしてとりわけスマートな観点からより優れた制御を維持できるため、正しい意思決定を容易に行うことができます。

これらは、既存の都市のバーチャルツインを作成できるコラボレーションプラットフォームの基盤であり、時間の経過とともに発生する変更情報を得ることができます。動的都市の物理モデルと仮想都市の間の継続的なフィードバックにより、両方がお互いを表すことが保証されます。最初に何が起きているかを言い、2番目に将来の介入の影響をシミュレートして評価します。言い換えれば、都市のバーチャルツインは、構築された環境と関連サービスを接続し、逆境や変化に動的に対応できるシステムです。

起きている変化は、挑戦だけでなく、素晴らしい機会ももたらします。テクノロジーは、都市計画、設計、不動産の専門家を社会イノベーションの中心に置き、変化から価値を引き出して競争力を高め、新しいプロジェクトや注文を獲得し、収益性を改善し、開発を促進することができます。それは前向きで持続可能なものです。







# 会社概要

全てのデザインフォース



LENDLEASEは、オーストラリアのシドニーに拠点を置くインフラストラクチャおよび都市再生部門で活動する多国籍グループです。同社はインフラに関連するさまざまな分野で事業を行っています。LENDLEASEは、公的および私的、文化的、社会的に重要な多くのプロジェクトを委託されています。彼らは、シドニーオペラハウス、ニューヨークの9/11記念館と博物館、テートブリテンやロンドンの国立劇場などの歴史的建造物の修復と改修に携わってきました。



GIUSEPPE TORTATO ARCHITETTIは、都市再生をテーマに特化して、建築とインテリアデザインを扱っています。スタジオは、感覚体験と持続可能性に関連する問題の研究を行い、人と自然それ自体が「建築材料」となる感覚と自然の要素を通じて、エネルギーを解放し、人間のスケールで環境と建築を開発することを中心的な要素と位置付けています。



GETは、人々の持続可能性、健康、福祉の概念に基づいて、責任あるビジネスモデルに焦点を当て、統合された再生プロセスの開発において公的機関と民間機関を支援するために2018年に設立されました。GETは、高度なトレーニング、コーチング、コンサルティングサービスを通じて、不動産サプライチェーン組織にサービスを提供し、スキルを向上させることで、これらの概念によって開発および改善することを目指しています。



イタリアンスタイルの世界的アイコンであるPININFARINAは、スタイルとテクノロジーの統合を通じて美しさを生み出す能力で知られています。スキルは工業デザインからインテリアデザイン、建築からマスタープランまで多岐にわたり、特にモビリティと社会的影響の側面に注力しています。建築家、エンジニア、ランドスケープアーキテクト、インタラクションデザイナーで構成されるチームは、トリノ本社をはじめ、マイアミ、上海にオフィスがあります。



支援とケアサービスのヨーロッパのリーダーであるKORIAN グループは、第三世代と第四世代の住居の管理に20年以上携わっています。このグループは、フランス、イタリア、ベルギー、ドイツ、スペイン、オランダに存在し、850を超える施設、合計約80,000床を擁し、ヘルスケアおよびヘルスケアセクターの複数の活動分野で事業を展開しています。人への尊重と各ゲストの特定のニーズ答えることが、グループの仕事の中心となります。

## MATTEO FANTONI | STUDIO

**Matteo Fantoni**は、Foster and Partners（1991–2007）でのパートナーとしての長い経験を経て、2007年にミラノにスタジオを設立しました。MFSは世界のさまざまな地域で運営されており、マスタープラン、建築、インテリア、製品設計の活動を行っています。スタジオは、柔軟性、経済的、環境的持続可能性の原則に基づいて設計されており、社会のおよび都市的状况、建築品質、革新的なソリューションとの強力な関係を構築するプロジェクトを作成することを目的としています。



LAISTUDIO  
MAURIZIO LAI ARCHITECTS

建築家、舞台美術家、デザイナーであるMaurizio Laiは、光が根本的な役割を果たすことを表現した最初の現代美学者です。彼によると、ホスピタリティ、小売、レストラン、バーは、視覚的なインパクトとエクスペリエンスデザインとして構築された、表現力豊かな研究のシーンです。**STUDIO LAI**は簡単な取り決めで機能する、住宅部門でも国際規模で独自のカスタマイズされた設計ソリューションを提供します。



Lombardini22  
DESIGN THINKING  
DEGW

**DEGW**と**L22**は、**Lombardini22**グループのブランドです。ワークスペース部門のリーダーであるDEGWは、組織および不動産のコンサルティング、スペース計画、インテリアデザイン、職場の変更管理を専門としています。これは、企業がパフォーマンスを向上させ、スペースをビジネス戦略や人々のニーズに適合させることをサポートします。L22は、複数の権限を持つアプローチがあり、オフィスおよび商業ビル、都市空間、ホテル、住宅の建築およびエンジニアリング設計を扱います。



FOOD LIFESTYLE

**FOOD LIFESTYLE**は、研究開発と食品イノベーションを専門とする革新的なスタートアップです。それは、デザイン、特に創設者のPaolo Barichellaが先駆者であり、インデックスの主要な分野であるフードデザインに基づく方法論で機能します。Ho.Re.Caで、最初のフードシステムインテグレーター企業が投資を削減し、運用コストを削減し、利益率を高めることを可能にした、革新的なシステムを行っています。



workitect

**WORKITECT**は、ワークスペースの設計、スマートワーキング、および職場の変更管理を扱う会社です。ユーザー体験を向上させるという使命を持って、2つの異なるプロフェッショナリズムと感性の組み合わせから生まれました。オフィスデザインを専門とする建築家兼デザイナーのSimone Casellaと、仕事の物理的なスペースと、人と人との関係について、ビジネス組織の専門家の学位を持つLuca BrusamolinoHRコンサルタントです。



piuarch.

1996年にFrancesco Fresa, Germán Fuenmayor, Gino Garbellini, Monica Tricarioによって設立された**PIUARCH**は、環境の質と関係の価値に常に注力しながら、オフィスビルの設計からリテール、住宅、レジデン、修復までの建築を扱っています。コンテキストで、いくつかの主要なファッションハウスとのコラボレーションで国際的に知られている彼らの作品は、ヴェネツィア建築ビエンナーレにも展示されました。



bininipartners

1996年にTiziano Bininiによって設立された**BININI PARTNERS**は、統合された学際的なプロフェッショナリズムによって、都市計画、建築、エンジニアリングの間で、創造性、優雅さなどの能力を備えた、公共および民間の作品、建物、インフラストラクチャを作成します。彼のプロジェクトは、機能性と美しさを組み合わせて、都市と地域の複雑なニーズに対応できる革新的なデザインと、高度なソリューションの継続的な探求から生まれています。



matteo belfiore  
architecture + design

**MBA+D MATTEO BELFIORE ARCHITECTURE + DESIGN**は、建築家兼研究者のMatteo Belfioreによって東京に設立されたスタジオです。学際的なアプローチに基づいて、このスタジオでは、商業と職場のための建築とデザインを扱います。デザインアプローチは、デザインにおける伝統と革新の完全な統合を表すモジュール式で変形可能な空間を作成していますが、柔軟性と文化的持続可能性の概念に関する絶え間ない研究とは区別されます。



CentroMedico  
Santagostino

**CENTRO MEDICO SANTAGOSTINO**は、2009年に発足し、社会的利益を優先して集合的利益のイニシアチブを実行する会社であるOltre Ventureによって推進されました。広範な健康ニーズを解釈することが提案されています。歯科、心理療法、言語療法、理学療法など、NHSでカバーされていない分野でも、手頃な価格で、迅速に介入し、患者のニーズに最新の注意を払う高レベルの技術革新専門医療です。



Zaha Hadid Architects

**ZAHA HADID ARCHITECTS**として運営されているZaha Hadid Limitedは、1979年にロンドンでZaha Hadidによって設立され、現在は世界をリードするコンサルティング会社です。彼女の先駆的なビジョンは21世紀の建築を再定義し、全世界の想像力を捉えました。彼女のプロジェクトは、コンクリート、鉄鋼、ガラスで達成できる概念を変革し、未来への揺るぎない発想力の自信と楽観主義的な力を組み合わせています。





**PROGETTO CMR**は、1994年に設立された、統合された計画、建築、エンジニアリング、および設計を専門とする会社です。本社はミラノにあり、オフィスは世界中のさまざまな都市にあります。イタリアでの最近のプロジェクトには、ミラノのCityLifeコンプレックスの新しいGenerali本社、ミラノのTheSignおよびSparkOneコンプレックス等があります。海外の建設現場では、重慶の仙桃ビッグデータバレーマスタープラン（22の最先端の建物）と万江湾の環境に優しいスローリバーベイビレッジがあります。



**MIC MOBILITY IN CHAIN**は、2009年に設立され、現在45人以上の専門家で構成されている輸送計画を扱うコンサルタント会社です。ミラノ、モスクワ、ニューヨークにオフィスを構え、米国から中国、ヨーロッパからアフリカ、ロシアから中東へのプロジェクトで国際的に運営されています。同社の目標は、私たちの動きを深く理解することで、都市や都市環境に住む人々の日常生活を向上させることです。



**PwC**の目標は、社会への信頼を築き、関連する問題を解決することです。これは157か国に存在するネットワークであり、276,000人を超える専門家がおり、企業に対する監査、アドバイザー、税務コンサルティングサービスの品質を保証することに取り組んでいます。ウェブサイト[www.pwc.com](http://www.pwc.com)の詳細情報



**NEW VENTURES**グループはPwCで運営されており、オープンイノベーションとエコシステムのパスを導き、アニメーション化することを目的としたイノベーションマネジメントにリンクされた戦略的コンサルタントとして特徴付けられています。一方、資産ベースのコンサルタントは、新興技術に基づいた革新的な資産の作成を目的としています。



**SCHOOL FOR DREAMERS**は実在する学校です。思想的イノベーターである彼らは、公的および民間の企業や機関に真の持続可能性を生み出す意識を高め、すべての利害関係者にサービスを提供する責任があります。彼らは、各個人が職場での才能を認識して表現し、現在の社会モデルを統合と愛に基づく新しいパラダイムに変える機会を持つ人類を夢見しています。



**INTERNATIONAL EXPERIENTIAL SCHOOL**：学校の進化。人間中心の革新的な教育、心の知能指数の開発、バイリンガル、平均以上の準備：IEXSは学校以上のものです。子供を中心に建てられた多目的キャンパスです。幼稚園から高校、大学まで、人々が夢を信じ、経験を積み、高度な教育を受け、個人として成長できるタレントインキュベーターです。



**CENTRO SCOLASTICO GIOVANNI PAOLO II**は、国の教育制度（0～18歳）に属しています。これはイタリアでの新しいパイロットプロジェクトであり、個人を中心に据える教訓的なヒューマニズムに焦点を当て、教師（革新的な方法とスキルで訓練された）と両親（学校で行われた仕事）を含む自分自身が主人公です。教育の分野における革命は、選択が学校を中心とした全体に関係しているという事実に基づいています。



**GENERATION WARRIORS**は、現実の中で、世代間のコミュニケーションとそのトレーニングを行います。彼らは、ソーシャルチャネルでのコミュニケーション方法を革新する必要がある中小企業や大企業向けに、新しく革新的なスタイルのビデオコンテンツパッケージを作成します。さらに、心理学者とトレーナーの専門チームとともに、世代間の移行と革新を促進するために、社内のさまざまな世代間の会議に焦点を当てたトレーニング方法を作成しました。



**SIX IDEAS**は、ますます複雑化する現代の課題に直面するために、最高の専門家、研究者、思想家を結集するコミュニティです。目標は、テクノロジー、人、文化、場所の関係で生じる不整合を理解して解決できる新しいスキルを開発することです。Six Ideasは、ワークスペースにおける組織的、教育的、文化的イノベーションの変化とインスピレーションの触媒です。



**TECHNOGYM**は、ウェルネス、フィットネス、スポーツ向けのデジタル製品とテクノロジーのリーダーです。カーディオ、ストレッチ、ファンクショナルトレーニング向けの幅広い製品を提供し、ユーザーとパーソナルトレーニングエクスペリエンスをつなぐMywellness Cloudプラットフォームに接続されています。世界中の5000万人以上が、80,000のウェルネスセンターと300,000の個人宅でTechnogymを使用してトレーニングを行っています。これらは、最近のオリンピックの8つのエディションの公式サプライヤーです。



IL PRISMA (www.ilprisma.com) は、人と組織の融合の分野で世界のほぼすべての地域で活動し、生命関与に満ちた空間を設計するイタリアのデザイン会社です。同社はロンドン、ミラノ、ローマ、レッチェにオフィスを構え、建築（都市景観）、ワークスペース（Worksphere）、リテール&ホスピタリティ（目的地）の3つのビジネスユニットに分かれています。



CARLO GALIMBERTIは、ミラノのUniversità Cattolica del Sacro Cuoreでコミュニケーションの社会心理学を教えており、コミュニケーション研究と研究センターの心理学を指揮しています。彼は、コミュニケーションプロセスの研究への独自の対話型会話アプローチで知られており、特に新しいテクノロジーの研究とワークスペースの構造化に適用されています。Eleonora Brivio、PhDは、Fondazione Umberto Veronesiのフェローであり、ミラノのヨーロッパ腫瘍学研究財団の研究者です。



LUCIANA GOMEZ、デザイナー兼起業家。さまざまなスキルを組み合わせたイタリア系アルゼンチン人の折衷主義者。コワーキングの世界で国際的なデザインを経験した後、彼女は新しいスタートアップMYINの立ち上げにより、革新的なインテリアデザインソリューションの構想に焦点を合わせました。また、ミラノの大都市圏で最大の自治体の1つであるイノベーションと都市設計の評議員でもあり、市民向けのサービスとスペースの設計に専門知識を応用しています。



3D EXPERIENCE CompanyであるDASSAULT SYSTÈMESは、持続可能なイノベーションを想像するためのコラボレーション3D仮想環境を提供することにより、人間の進歩を促します。3DEXPERIENCEプラットフォームとそのアプリケーションは、イノベーション、学習、生産の視野を広げる実世界の体験のバーチャルツインを生成します。Dassault Systèmesは、すべての業界および140か国以上で、あらゆる規模の270,000を超える顧客に価値をもたらしています。www.3ds.com



DESIGNTECHは、デザイン業界に特化した技術革新ハブです。Hi-Interiorsが推進するハブは、MIND Milan Innovation District内のコワーキング、コファクトリースペースと統合されたリビングラボを構築し、この分野のスタートアップ企業、専門家を1つの屋根の下に集めることを目的としています。また、バリューチェーン全体に沿ったコラボレーションと、この分野でのデジタルテクノロジーの採用を加速することを目的とした、オープンイノベーションプログラムの開発を促進します。



GHÉNOS COMMUNICATIONは、国際的なプレスオフィスおよびPRエージェンシーであり、20年以上の活動と、デザイン、建築、不動産の各分野を専門としています。ミラノのDe Padova Arredamentiでの重要な経験の後にGabriella Del Signoreによって設立されたこのエージェントは、国際的なブランドのクライアントポートフォリオだけでなく、オーダーメイドのコミュニケーションサービスが提供されるエンティティや機関も誇っています。ミラノに本社を置き、スペイン、ポルトガル、英国にも拠点を置いています。



PPANによって構築されたコミュニケーションとネットワーキングは、管理戦略を開発し、コミュニケーション計画とブランドの評判を管理する会社です。PPANは情報を提供し、報道機関の活動についても公的および私的クライアントをサポートします。建築、エンジニアリング、不動産、都市再生：PPANは、新聞のthebriefとPantografo Magazineにジャーナリズムのコンテンツを掲載することで、リファレンスコミュニティの関心を高めています。出版社として、彼はこれで分野の出版物を制作しています。



**Designtech<sup>®</sup>**

[thedesign.tech](https://thedesign.tech)